



「私は、私を強くしてくださる方によって、
どんなことでもできるのです。」

(ピリピ4:13)



チア・ミニ学習会。130人で「効果的学習法」「バスケット」「GS導入セミナー」「交わり」と盛りだくさん!

ハレルヤ! 皆さん、お元気ですか。今、娘のエミリ(14)と一緒に日本へとロサンゼルスを飛び立ったところです。6月20日号のニュースレター以来のご無沙汰でした。この間、たくさんの方がいました。神様のあわれみと皆さんのお祈りのおかげで、恵みに満ちた体験を重ねられました。たとえば、第4回「チア東北サポート」の実施、皆さんに1年あまり祈っていただいた母校の旧制中学・高校の「同窓会企画」、130名の皆さんとの「関東ミニ学習会」、「チア・カリフォルニアコンベンションでの報告会」、...と皆、神様のあわれみの中で祝福されました。8月29日からは第5回「チア東北サポート」ですが、チア・カリフォルニアでの報告後、参加希望者が与えられ、今回初めて、アメリカのホームスクーラーも受け入れることに導かれました。8月25日から、チア・サポートスクール「English Camp & 富士登山」、10月1日は新企画で、都内の陸上競技場を借り切った「チア・オリンピック」、そして11月の「白馬セミナー」に向けての準備が進んでいます。準備へのお祈り、ご参加、よろしくお願いします。

チア・にっぽん代表 稲葉 寛夫

《今月の巻頭言》

- 1 チア・カリフォルニア・コンベンションにて... P2
- 2 アメリカのホームスクーラー、第5回東北サポートに参加へ... P2~3

- 3 関東ミニ学習会：効果的な学習法... P3
- 4 第1回チア・オリンピック10月開催... P4
- 5 第4回チア・東北サポート... P5
- 6 エミリと初の「2人だけの日本1ヶ月」... P10

チア・カリフォルニアコンベンションにてー 報告「被災者に仕える、日本のチャーチ &ホームスクーラーたち」

7月14日、日本から戻って2日後、チア・カリフォルニアコンベンション（参加者約5000名）の基調講演の時間に15分、「チア・にっぽん」の報告をさせていただくことになりました。幸いなことに、この5、6年ほど、毎年、招いてくださり、祈ってくださっています。今年は、チアのホームスクーラーたちが、震災ボランティアに向かっていることを話してほしいとリクエストをいただきました。帰国前の最終日、スライドショーを、堀井卓CSS校長や桑谷美穂スタッフらと午前1時すぎまでかかって準備しました。そして、アメリカで、台本を、真祈史に手伝ってもらい、当日、午前4時に準備が終わりました（^^）。

朝7時すぎに、出発。途中、クリーニング屋さんに寄ったところ、本番用の台本とDVDを家に忘れたことに気づきました。家に戻ったり、ガソリン入れたり、リハに遅れそうになり、アシスタントとして同行した真祈史から「ダディ、焦ってるの（笑）？」と言われて、「そう、リハに遅れそうだから」といった感じでした。でも、リハにぎりぎり間に合い、とても協力的な、プロの音声や・照明スタッフさんらと無事に終えて準備完了。ステージ脇で、真祈史と台本チェックをしていると、裏から、音声スタッフさんの声が聞こえました。後から来た同僚の方に話しているようです。「今日は日本の津波のすごい映像がたくさん、出るよ。見ていったら？」と誘ってくださってました。すごい、いいスタートでした。

本番では、まず、皆さんへの感謝と共に、同行した真祈史を紹介。「11年のHSを経て、8月から大学へ。良きアシスタントというか、良きヘルパーです。じゃ、真祈史、行っていいよ」と言ったら、思いがけず、受けました。「一番下に、ジョセフ2才がいて、もし神様が許してくれれば、あと15年間余のHSができるのでグレートです」と正直に言ったら、また、受けて、会場とのコミュニケーションが良く、心が通いあえて、うれしかったです。

終了後、以下のように話しかけられました。

「すごかった。私にとっては、もう受けとめられないくらい。胸がいっぱいになったよ」

「今朝のセッションが、コンベンションの中で最高のセッションだったと思う。すごく感動した」

「チア設立当初から、ずっと祈ってるよ。これまでの毎年の報告に、毎回、励まされてきたけど、今回ののは、それらが積み重ねられたハイライトだと思う。圧巻だったよ！」

「いつも、Hiroの報告で、霊的に感動して、励まされる。ありがとう！ お母さんを病気で亡くしたホームスクーラーの家族は、その後、どうしてる？ もう、HSは辞めた？ え、まだ、続けてるの？ ぜひ、『その後』を教えて、...」

「今もニーズが深いことに気づきました。ありがとう。ぜひ、ミッションチームに加わりたいんだけど」

「チアで働きたい。ミッションボードを通せば、経済的には、サポートしてもらえらると思うのだけど」



浜の復旧めざしてー 牡鹿半島 侍浜にて
(第4回「チア・東北サポート」より)

「支援活動のお金はどうしてるの？ 今日、その話なかったけど。え、日本のHSが献金してるの？ それはすごい！ 私からもチア・カリフォルニアに送っておくね」

「今朝、見れなかったんだけど、すごいよかったと、いろんな人が言ってたよ」

「今後、ますます神様の祝福があると思う。続けて祈るね」

終了後、先に真祈史を家に送っていきました（ホームスクーラー向けの通信制高校の卒業レポートの締め切りがあるので。今朝は午前2時までつきあってくれて、助かりました。「（真祈史）ダディ、送ってくれてありがとう（ほかの分科会に出る予定を犠牲にしたのを知っていたので）」「いや、今日は真祈史の台本チェックの助けがないと悲惨だったと思う。本当にありがたかったから、気持ち良く、送るよ」「でもダディ、当日、直前の準備はかんべんしてくれ（笑）」「時差ぼけで、昨日までは、本当にできなかったんだ、...。昨夜、最初、台本無しで、ナレーションのリハしたときは悲惨で、真祈史が「台本を作ろう！」と提案してくれたのでした。日本でも、アメリカでも、「主の山に備えあり」で、神様や助けてくれたみんなに感謝しました。その後、会場に戻り、日本のHSたちを歓迎している大学等のリサーチ等をしたり、ほかのスピーカーたちとのミーティングを持ちました。感謝な疲労感に包まれて帰宅しました。

アメリカのホームスクーラー、 第5回東北サポートに参加へ！

その後の反響として、参加問い合わせがチア・カリフォルニアにも寄せられ、スーザン・ビーティ会長から、「いいセッション、ありがとう。すぐに下記の問い合わせが来たよ。無理しなくていいので、断りましょうか」とメールが来ました。これは、今までお世話になっているアメリカのホームスクーラーたちを、わずかでも弟子訓練して返すチャンスでもあり、人数限定で受け入れることにしました。日本とアメリカの両方の状況をよく知るジュリー・ホーンさんらと相談し、3名に限定（宿泊や通訳ほか、準備が必要なので）しました。そして、願書



←アビー・フレデリクセンさん

↑エミリー・イナバさん
(写真左)↑キャリー・
コディントンさん

ニコール・スガヌマさん→

のほかに、小論文や推薦書を必須として、選考試験を経ての参加とハードルを厳しくしました。そして8月29日からの「第5回チア東北サポート」について、チア・カリフォルニアの公式ホームページに案内が出されました。

ジュリーさんいわく、「アメリカのホームスクーラーにとって、これは、大イベント。多分、今回は、あまりにも直前の知らせなので、応募ないかと思うけど、いいかしら？ 10月とか、来年募集なら、きっと応募多いと思うけど...」。確かに、応募締め切りまで短期間で、飛行機代とか費用もかかるし、普通は、8月末の予定は組んであるので、今回、応募は難しいなと思いました。「それでも、祈りのリクエストという意味でもいいと思う」という判断で、8月の応募受け入れ決定のニュースを入稿することにしました。うれしかったことに、その日、速攻で一人、申し込んでくれ、その後、小論文、推薦状と送ってくれて、審査の上、合格。

また、話を聞いたHSLDA（東海岸・バージニア州）からも、「すでに何人が希望が届いているので、秋か冬のスケジュールが決まったら、連絡してほしい」と、続けました。ということで、今回は、先に申し込んでいたエミリーと共に、2人、初めてアメリカからのホームスクーラーを交えてのボランティア展開になることとなりました。と書き

ましたら、その翌日、すぐに2名、推薦書込みで、申し込みあり。また、HSLDAも記事を出してくれたようで、3人申し込みが来ました。今回はウェイトिंगリストで、次回以降の参加にしておらおうと思います（日本人枠は若干、ありますので、ぜひ、お申し込みください）。当初は思ってもみなかった国際的な展開にも拡がり、不思議だなと思っています。

6人が発見した効果的な学習法— 関東ミニ学習会(参加130名)より

LAに戻る2日前、関東ミニ学習会を開催しました。130名の参加で、予約した教室は立ち見状況でした。最初は、5人からの学習アドバイス。「(堀井卓CSS校長) 英語の必要を痛感!」「(能登麻里CSSスタッフ) HSして勉強の喜びがわきました。つまり、神様との関係」「(司会:稲葉) メモを取ろう!」「(桑谷美穂チアスタッフ) 高校時代は合唱部が忙しく、勉強苦手で成績は良くなかったです。浪人中、ずっと基礎に戻って勉強したら、わかるようになり、その後、勉強が楽しくなり、結果も一気にのびました(北大文へ)。だから今、勉強苦手で、心配しすぎず、わかるどころまで戻って勉強してみてください!」「(デールさん CSS英語講師) 喜び学習法。本人が興味や喜びを見いだすテーマを探求させれば」「(宮崎聡CSS主任) ほめ育て。でも、こびて、おだてると逆効果。子どもはわかります。本当にほめられる行動を見つけて、そこを徹底的にほめるといいと思います」。

続・クリスチャン社長の嘆き— チャーチ&ホームスクーラーチャンス時代!

「(稲葉) 今、勤勉なHSがチャンス時代だと思います。30~100倍の実を結ぶ『良い地』(マタイ13章) へと耕されつつあるからです。最近、あるクリスチャン社長から直接、聞いた話です。『無断欠勤をしたクリスチャンをとがめようとしたら、『彼女は霊的にダウンしてるんです』と他のスタッフにとがめられ、主任牧師から、『厳しすぎると不評の声が届いている』と情報を伝えられた』そうです。うつ病とか、病気の時は仕方がないです。骨折している選手にサッカーやれと言っても無理でしょう。『それとは違うケース。霊的ダウンといっても、連絡するという義務も礼儀も必要。仕事への情熱や責任感、ガッツがない。また、それを『霊的にダウンしてるんです...』として許すっていうのは、どうも...』との社長さんのことば、わかる気がします。これはクリスチャンに限らないと思います。ある方は、『今の子は、言われたことは何となくこなす『成績良好のよい子』であってもガッツや、やる気、忍耐力にかけた若者たちが多い』とのこと。正しく、聖書的に、厳しく叱られたことが、ほとんど無い子が多いでしょう。日本全体が、そんな風潮の中で、逆に、ホームスクーラーがしっかり、努力を重ねていけば、社会に影響を与えていく、チャンスが大きい時代と思います」

なぜ、勉強するか—強い目的

「それでは、なぜ、勉強するのか。勉強の動機づけをど

うするか？ 『勉強は、神様や親との絆を深めるために。神様の栄光を現すための訓練、準備、そして、与えられた賜物の発見のために勉強する』。ホームスクーリングの良いところは、この目的意識を繰り返し、繰り返し、教え込むことができる。親の犠牲と励ましをもって。そして、眠れる油田のごとく、多くの潜在能力がゆだねられている希望のまなざしをもって。

では、勉強を実行する力は？ 『聖霊に満たされて』。親自身も、根本である強い3つの目的の確認が必要。なぜ、今日、効果的な学習法を学ぶのか？ 言い換えるなら、どこに向かって、ホームスクーリングをしていくのか。これまでも何回も話してきた3つの目的について分かち合いました。1魂の救い（地獄ではなく、天国へ）。2キリストの弟子のこころを与える（肉に属するクリスチャンと御霊に属するクリスチャンの2つを選択できる。もちろん、聖霊に属するクリスチャンを選んでほしい）。3伝道・世界宣教。これらの強い目的をめざし、従順、正直、勤勉さを教えていきたい。自分自身が悔い改めながら」。

NHKスペシャルのまことの道

「最後に、NHKスペシャル班ディレクター時代に学んだ、『NHKスペシャルのまことの道』。まことの道の『ま』は、いい先輩の模範をまねる。キリストの似姿となるように、キリストをまねる。『…すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい（ピリピ4：8）』、『あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるため（エペソ4：15）』。最近、CSSで良い質問を受けました。『誰かのようになれないと落ち込みがちですが、どうでしょうか』との良い質問です。

『まねる』とは、不完全な人そのものをまねるのではなく、優れた人の中にある、聖書の秘訣を見いだして自分の歩みに吸収することです。

『こ』は、『こだわり』の『こ』。伝えたいメッセージへのこだわりが無いと、番組には感動も何も届きません。キリストにある人生も同じです。

『と』は『とりあえず』の『と』。こだわりすぎると時間切れになります。とりあえず、前に進むのも大事です。進んで時間が残っていれば、迷ったり、うまくいかず、止まっていたところに戻って、また、こだわることもできます。完璧主義にならない訓練です。人生には失敗も多いけど、悔い改めつつ、でもイエス様の赦しと万全な計画を信じて、前に進むことを示されます。不完全でも、でも、聖書にこだわって。聖書に書かれてあるとおりです。「私（パウロ）は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。…うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。（ピリピ3：13、14）」

130人の近況報告、チアHOPE（バスケット）、
心臓マッサージ教室、GS導入セミナー

学習ポイントの秘訣分かち合いの後、130人の皆さんの近況報告、とても良かったです。「今、ホームスクーリング検討中です」「始めて半年。本当に良かった」といったご家族から、「チアスタートと同時に始めたので11年め。長いからいいというものではありません。かなり悩んでいます」「奈落の底を体験し、今、神様に感謝する心を与えられています」といったコメントまで、ざっくばらんな分かち合いの時に導かれ、その後の個人的な交わりのきっかけの場ともなりました。午後の体育は、藤井一朗さん（九重部屋トレーナー）の準備運動のあとに、「チア・HOPE」のコーチ陣（辻奈央子さん、桐山壘さん）らによるバスケットボールと、藤井さんの「水の事故等、緊急時の心臓マッサージ教室」、また、英語教材「GrapeSEED導入セミナー」と並行して開催されました。どれも、大好評でした（感想は29ページ）

10月1日（土）「第1回チア・オリンピック」
（台東区陸上競技場）を開催へ

10月1日（土）ですが、陸上競技場（200メートルトラック）を貸り切って、「第1回チア・オリンピック」を開催することにしました。きっかけは、米国公認スポーツインストラクターで九重部屋トレーナーの藤井一朗さんからの提案です。4年あまり、関東ミニ学習会の体育を指導してくださっていますが、さらに「聖書に記されているパウロの時代の古代オリンピック」の機会を！とのことでした。丁度、チア・サポートスクール校長の堀井卓さんからも、「私たちからは、『運動不足』『体育関係の企画が増えれば感謝』という声が多い」との声を受け、「English Camp & 富士登山」を計画、さらに、「チアHOPE」の応援ほか、体力系の展開を考えていたところでした。これまで、「運動会」や「体力測定会」等を実施くださっていた渡辺健・まゆみさん夫妻らと相談し、「楽しいことはどんどんやるべし」との応援の声を受けて、実施となりました。11月に、野球、体力測定会等実施の可能性ありとのことで、スケジュールが重ならず、会場の空いていた10月1日実施となりました。詳細は11ページです。今から、スケジュール開けてくださり、ぜひ、ご参加ください。



チアHOPE バスケット大会（関東ミニ学習会にて）

第4回チア東北サポート

少しさかのぼって、6月20日～24日の第4回チア東北サポートの報告です。25名で行ってきましたが、これもすごい良かったです。これまでヘドロかき等、ボランティアさせていただいた石巻の高橋さんに連れられて、牡鹿半島の小さな漁港での漁師の皆さんとのがれき作業を始め、釜石、石巻（牡鹿半島・侍浜）、南三陸、仙台・若林区での物資補給や仮設住宅の手伝いや交わり等、これまでにない体験を含めて、恵みと祝福の時を過ごせました。「仕える喜び」を体験させられたという感じです。自分のためではなくて、悲しみ、落胆している隣人のために、何か全力を尽くして貢献できるということは、なんと、幸せな体験でしょうか。また、次回、持っていくための、山のような夏服の整理も8人、2泊3日の作業で達成できました。もう少ししたら、レポートをまとめ、報告したいと思いますので、少しお待ちください。第5回チア・東北サポートは、8月29日（月）～9月2日（金）です。

今回は、前号でお約束しました、第3回の様子をお伝えしますね。

「町全体が傷つき、お葬式みたいなどころへ行く、顔は笑顔でも、、、準備&祈りにて」

出発2日前、16名のティーンたちやホームスクーリングママさんらが、世田谷のチア・サポートスクールでの、ボランティアチームへの準備と祈りに参加してくれました。「町全体が傷つき、お葬式みたいなどころに行くんだよ。もちろん、わんわん泣いてるわけではなく、顔は笑顔だったり、がんばってはいるけど、多くの悲しみや不安で満ちているよ。そこで、『喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く』、その気持ちで行こう！」。それから2時間あまりのミーティング。みんな真剣で、とても感謝でした。

ティーン初の本格参加ー

キリストの弟子のこころ

出発の日の朝6時30分、最初の参加者のAさんがチア・オフィスに登場。その後も続々、集まり、トラックへの物資の積み込みをスタートしました。今回は、釜石の皆さんからリクエストいただいた下着、スコップ、一輪車、長ぐつ、果物、野菜、お菓子なども加えた約2トン。総勢23名、今回、初めて、中高生15名と、ホームスクーリングママさん、まだ66才ですが「シニア代表（ご本人）」で1名、また、工務店の社長さんら、建築現場のプロも加わり、トラックの運転をしてくれます。

ティーンたちを連れていけることはとても感謝。4月の第2回で、テストケースとして堀井伊左久君（20才）を連れていき、ボランティア先で好評でした。それで、今回、初募集したところ、すぐに定員となりました。「キリストの弟子の心を与える」というチアの目標にダイレクトにかなうことで、良かったなーと思いました。これまでの体験から、少数（24名）で行こうと、定員制にしたので、途中で募集終了。何人かの方は、次回以降にまわってもらいました。

祈って、出発。途中、いわき市を過ぎ、東北自動車道か

ら見える街並みや校庭からは、人の姿が見えなくなります。原発事故は、地域の様相を一変させています。

突然、現れた被災地にて — 陸前高田

仙台では、国際飢餓対策機構にて野菜等を補充し、宿泊地、大船渡へと向かいます。陸前高田市。山あいの国道ぞいに、突然、津波に打ち破られた家々、横転した家や車が現れ、楽しかったバスの中の雰囲気が一転、張り詰めた空気になりました。陸前高田には、父の長年の友人Bさんが移り住んでいました。「心配だ。今年も年賀状、交換してるし、電話も、住所もわかるけど、申し訳なくて、かけられない。生きてましたか、、、といった電話になってしまふから、、、」と、気遣う父に代わって、電話をかけてみました。呼び出し音が鳴るので、朝、夕、夜の時間と、何度かかけてみましたが、一度もつながりませんでした。陸前高田市役所、安否確認担当係に電話をかけると、丁寧な対応が返ってきました。「残念ですが、避難所のリストには入っていません。死亡者、行方不明者のリストにも入っていません」「そうですか。住所は、陸前高田市C町ですが、その町内は、被災したところですか？」「そうですね。震災で、大きな被害が出ているところです。Bさんの状況は、わかりかねますが、その町内は家々が流され、多くの犠牲者が出た町内です」「そうですか。その旨、父に伝えます。ご丁寧ありがとうございます」。こんなやり取りを経ての、2度目の陸前高田市でした。

前回に続いて、2週間ぶりの陸前高田は、少しがれきの処理が進んだようでした。見渡す限り、家々が流され、壊滅的な状況となった町の様子は、そのままです。よく復興のシンボルとしてニュースで取り上げられる1本だけ残った松の見える港に、バスを停車。15メートル以上の高さに集められたがれきの山や、壊滅した街の様子を、チームのみんなに、直接、見てもらおうと思いました。ホテルの4階、5階まで、津波のあとが残っています。ものすごい量の津波が襲ってきた状況がよくわかるエリアです。

メンバーの手記です。「B君（16）：陸前高田へ。瓦礫の山々。人の住処だったとは思えなかった。家は、無い。目に付くのはその土台だけ。建物の鉄筋。グニャリと曲がり、まるでジェットコースターのレールの様。地面には幾つもの大きな裂け目。陥没し、海に埋もれた道路の先。どこまでが地上だったのか分からない。数百メートル先に海から顔を出している小さな建物。皮肉にも心地の良い海風だった」「C君（20）：窓越しに見える陸前高田の悲惨な様子にみんなが声をあげた。前回来た時とほとんど変わっていない。無理もないと思う。ここまで壊滅的なダメージを受けて、ほんの2、3週間で何が変わるのか」「Dさん（16）：仙台から山を越えて陸前高田に入ったとき、一瞬自分の目を疑った。愕然とした。そこにはただ瓦礫のほか何もないような感じだった。そこに町があったとはとても思えなかった」「Eさん（20）：突然目の前に飛び込んできたあまりにも悲惨な光景に言葉が出なかった。辺りを見渡しても瓦礫の他に大きな建物が僅かに残っているだけで、普通の民家は見当たらなかった。この瓦礫の処分は一体どうするんだろうと思う」。

何人かのティーンたちが、走ってきました。「稲葉さん、こわいよ。あの岸壁のはじっこに、海に向かって、人形が



陸前高田・がれきの中にいのちと暮らしを思う（パート3）
（第3回「チア・東北サポート」より）

縛られて、立てかけられてた。なんだろう、あれ？」「すごい、こわいよ、あれ..」

「(稲葉) そうだねー。僕もわかんない。子どもたちも、たくさん、海に流されていったらうから。もしかすると、女の子を失ったお父さんやお母さんが、海に消えた子どものためになって、その子が大好きだった人形を立てたのかもしれないかな...。親としては、悲しくて悲しくて、その子が喜びそうなことなら、何でもしてあげたいっていう気持ちでいっぱいだろうから...」

今夜の宿泊地となる大船渡市へ。ここでも、被災した港やショッピングセンターのビルなどを、みんなに歩いてもらいました。ここで、仙台から軽トラックで追いかけてきた松岡さんと合流し、泊めてくださる大船渡の教会へと向かいました。3週間ぶりとなるシュー伝道師が、笑顔で迎えてくれました。

今日、見る状況を忘れないで— ヨルダン川を渡って置かれた記念石

朝6時。礼拝にて、シュー伝道師がヨシュア4：1～14からメッセージ。エジプトの地を出たイスラエルの民は、40年かけてヨルダン川へ。渡るのも困難な激流を前に、神に従い、信仰をもって川に足を踏み入ると、奇蹟が起こった。流れが止まった。最後の人々が渡り終わると、人々は石を12個置いた、神の御業を忘れないために。「クリスチャンの若者がこれだけ見られるのはうれしい。これからの日本を引っ張っていくと思うので、今日、目にする、この状況を忘れないように、心に刻んでおくように」とのメッセージ。

朝6時30分。教会の隣家のヘドロかきからスタート。おじいさんが、ドアに腕をはさまれ、津波が押し寄せ、命を失った家です。24名で掃除スタート。流れ込んだ材木、魚、ごみ、ヘドロのまざった表土をスコップでかき、土のう袋に入れます。重さ30～50キロほどになった土のう袋は、すぐに60袋あまりが満杯。2トン以上の山となりました。この現状が、被災地のそれぞれの家にある状況です。復旧、復興の仕事量は膨大です。

「Fさん（16）：作業をしている途中に魚の死体が落ちていた。その魚は悪臭を放ち、捨てるのに一苦労だった。被災地の方々は毎日こういうのを目にし、また臭ったりするのは、本当に大変だと思う」

それでも、24人いて、みな真剣なので、スピードが早い！早朝からの力仕事で、お世話になった教会の隣家を手伝え、気分は晴れやかでした。その後、キムチご飯をいただいて、釜石へと出発しました。

助ける喜びと通じ合う心— 釜石・浜町での物資支援

釜石市では浜町に向かいました。前回、飛び込みで知り合い、物資の支給を行った場所です。町内会長の高橋さんとは、何度か、電話で打ち合わせをしました。「うれしいけど、でも、申し訳なくて。前回は、あんなにたくさん、持ってきてもらい、私たちだけ、いただいているのか...との思いにもなります。お気持ちだけで、感謝で、十分で...」と東北人特有の遠慮の答えが続きます。3度続いた時は、同じ東北出身でそのあたりの奥ゆかしさをわかっているつもりでも、「もしかして、本当におせっかいかな...」と思い始め、「それでは...」と、断念しかけました。その瞬間、「わかりました。それでは、こうした時なので。人としてのご厚意を、思い切って、受け取らせていただきます」と、言ってくださいました。そして決まった、2回目の物資の支給でした。前回同様、全町内にアナウンスしてくださり、60名あまりの皆さんが集まってくれました。2回目なので、少し、顔なじみの皆さんも増えてきました。高橋町内会長さんは集まった皆さんに、「皆さん、先月に続いて、励ましに来てくれました。とても感謝なことです。この後は、ボランティアの労働をされる予定になっていて、すでに長靴履いて、本腰で準備くださっています。ありがたいです。せっかくですので、稲葉さんにごあいさつをいただきます」と、機会を与えてくれました。公的な機関を通したりすると、物資を裏口から届けて終わりといったところが、よくあるパターンです。町役場の人や代表者の人と会うぐらいです。こうして、直接、被災者の皆さんと話す機会を与えてくださることは本当に感謝なことと思えました。「こんなに温かく迎えてくださり、心から感謝しています。私たちは、クリスチャンです。全国のクリスチャンたちから、何か少しでも、皆さんの応援になれば、共に喜んで、共に泣ければとの思いから寄せられた義捐金や物資を持って、ボランティアチームとして来ました。まったく微力で、寄り添うことなどできませんが、わずかでも、皆さんと心を共有できればと思っています。今日、どうぞ、よろしく願います。皆さんに、神様の祝福があることを心から祈っています。皆さん、あたたかいまなざしで、一言、一言を、集中して聞いてくださり、とても感謝でした。メロンとか、チアメンバーのママさんたちが、4分の1にカットしてくれて、多くの皆さんに渡りました。ティーンのみんも、がんばりました。30分もしない内に、2トンの物資が無くなり感謝でした。

「Gさん（16）：東北の方へ向かってからは、自分の自我との戦いが続きました。すぐに他の人を裁いてしまう自分。泥だらけになりたくない。しゃがむの辛い。疲れた...

自分の事ばかり考えていました。そんなときに救援物資を配りに行きました。取り合いもせず、本当に近所の方々と愛し合っておられる被災者の方々を見て、何かあついものがこみあげてきました。私がしなければならぬこと、(それも今!!)それがわかった気がしました」

Hさんが「みんな、笑顔でもらって行ってくださって、うれしかった!」と感激して話してくれました。

トラック2台分の皿洗い約5時間

その後、高橋さんがアレンジしてくれたボランティア活動へ。頼まれた仕事は、浸水し、ヘドロにまみれた食器や皿洗い。「君(20)：瓦礫の撤去作業だろうと思い、防塵マスクと簡易防護メガネを準備し『いざ!』と気合を入れながら行ったところ、言い渡された仕事は、『皿洗い』。しかしこの皿洗い、侮るなかれ。総勢24人でやっても5時間かかるほどの膨大な量で、終わるころには腰が痛くて辛かった。が、やり終えた時の達成感はとても気持ち良かった」。

「Jさん(14)：一生でこんなに皿洗ったことない!」

5グループに分かれて、5段階ぐらい洗い直すので、皿や食器は、びかびかになりました。こうした食器の背後に、どれだけの暮らしが変わったのかなーと思いました。24人で5時間の奮闘。釜石社会福祉協議会の方は、「チアの皆さんは本当に一生懸命やられていたことがよくわかった。そして、すごく楽しそうにやっていたのも、よくわかった」。みんな、喜びの中で一生懸命やってくれました。見ている人々にも伝わっていて、うれしかったです。

岸壁に乗り上げた巨大貨物船

5時間の皿洗いは重労働。ねぎらいたい思いと、津波の威力の勉強を兼ねて、数千トン級の巨大な貨物船が防波堤に乗り上げ、道路に突き出たままになっている港に向かいました。今回の震災のすさまじさを表す、象徴的な現場の一つとして、ぜひ見ておくべきと思った1ヶ所です。後ほど、菅首相が釜石を視察した時に向かった所で、記者会見の背景にも使われていました。数千トン級の貨物船が、十数メートル以上、持ち上げられ、5メートルあまりの防波堤の上に落ち、船底がコンクリートの防波堤に食い込み、今も身動きがとれずにいるのです。神様が許された津波の威力を思います。

ある学者は、「津波の力」をわかりやすく、以下のように解説します。「津波は、目に見える10数メートルの動きだけではない。震源地の海底3000メートルあまり全体の水量が陸に向かって走り寄せ、その力が激突するので、驚異的な力を生み出す」という解説です。巨大な船を持ち上げ、引き落とし、身動きできなくした、この現場からも、津波の威力を改めて実感できます。この地をみんなに見せられて、良かったと思いました。神様が開いてくれたのだと思いました。

釜石から車で5時間、宿泊場所の仙台のワインスタジオへと南下します。ホームスクーリングママのKさんが、バスで酔って体調、悪化。マイクロバスよりも、軽トラックの方がいいだろうということで、私が運転していた軽トラックへ。Kさんの証しを聞くチャンスが与えられて、感謝

でした。順調だったHSライフでしたが、去年の白馬の頃は、ひどく落ち込み、家族が「休んできたら」と一人で送り出してくれたのだそうです。そこで、「魂の救い」という、ホームスクーリングの大いなる目的や、神様の力で進むことを再確認され、力を得たのだそうです。約4時間、いろいろと証しを伺え、励まされました。午後10時頃、到着。寒い夜でした。本当はスイッチ入れれば、暖房利いたのに、それを伝えるのを忘れ、スタジオで眠っていた女性チームの皆さんに大変、申し訳ありませんでした。

人々の必要に敏感になるー

マーケティング力の訓練

3日めは、東京から石巻用に持ってきた物資に加え、サマリタンズパースの台所用品や、国際飢餓対策機構で物資の補給。国際飢餓では、被災者の人々のニーズを考え、各自一人、3点ずつ、支援物資を選び、現地に届けることにしました。特にティーンたちが、被災地の人々に能動的に関わることになるし、将来、実社会で必要になる、「人々のニーズを考え、それに応える」というマーケティングの訓練にもなると思ったからです。

ヘドロかき作業

石巻の水産加工場主、高橋さんの自宅に向かいました。前回、第2回のボランティアで、濡れた畳運び等、手伝わせてもらったお宅です。今回、電話すると、工場や、床下のヘドロかきをお願いできるなら、ぜひとのことでした。まず最初は、工場の前で、物資の支給。40-50人の方が、集まり、すぐに物資は無くなりました。

3つのグループに分かれて、ヘドロかきの作業スタート。井戸のような円形コンクリートのタンクには、真っ黒な原油、魚臭、がれき等が液状化したヘドロがたまっていました。最初、皆で、スコップでかき出しましたが、深くなるとスコップの柄がぶつかり、うまくすくえなくなりました。それで、まず私が、五右衛門風呂のように入って、バケツですくってみました。そうするとよくすくえることがわかったので、ほかの2つのタンクを担当していたティーンたちにも、「これ、深さ胸ぐらいで大丈夫だから、中に入るとやりやすいよ!」と呼びかけました。2人は、素直に続けました。さらに、ティーンのLさんがそばにいたので「入ってみる?」と聞いて、代わりました。

「Lさん(16)：一番葛藤したのは高橋さんのお宅で、漆黒のヘドロの中に!!入って作業することになったときです。稲葉さんに『やる?』と聞かれて、いやだなあ〜と思いながら渋々中に入り、シャベルで少しずつかき出し始めました。初めは汚れたくないから直立してちょっとずつシャベルでやっていました。しかしそれでは一生終わりそうになかったのでプライドを捨て、ヘドロに浸かってバケツでやることにしました。それでもやりにくかったので最後は手で作業しました。最初は本当にいやでしたが、途中から一緒に作業していた2人と冗談まで言い合ったりして、笑いながら終わりました。終わりかけの時には、『ここ居心地いいね』なんて言ってまるでお風呂に入っているみたいにくつろいでいました」 「Mさん(16)：最初は、臭くて足もヘドロにはまるので嫌だったのですが、友達2人と

やっていたのでだんだん楽しくなって、なんかこの五右衛門ぶろ落ち着くねと言っていました。おじいさんの高橋さんが適当でいいよと言っていたのですが、私たちは最後までやりたかったので、底が見えるまで頑張ったらおじいさんが、おお、こんなに綺麗にしてくれたかい、と言って喜んでくれました。その後は、泥だらけの洋服と食器を4人で洗いました。寒かったけどご家族が喜んでくれたのでよかったです」

隣にも「ヘドロ井戸」があり、Nさんや「シニア代表」のOさんらが取り組み、最後にはティーンのLさんたちが中に入って始まりました。和気あいあいとした歓声の中で！

「Pさん(16)：私はヘドロ掃除を始める前に正直汚くて嫌だなと少し思っていました。でも神様が力を与えてくださり、その時に人に仕える事は『自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失ったものは、それを自分のものとします』(マタイ10:39)ということだとわかりました。この日、本当の意味で仕える事が出来たと思います。その後はヘドロが体についてもだんだん気にならなくなりました。」

神様が地震を起こした意味の1つは私のためでもあったと思います。同情すること、仕えること、出来なかったこと、悔い改めることがたくさんありました。そしてそのことが少しでも出来るようになるために地震を通して私に教えてくださったのだと思いました。」

水産加工場にて — 鉄板との格闘

ヘドロ井戸を任せて、水産加工場に向かいました。家と少し離れ、そこに行ったチーム8人は、孤立した場所に志願した宣教師みたいな存在です。8人は、ヘドロかきと工場の機器の移動を必死に行っていました。シャベルでヘドロをすくっていると、ティーンの男子2人が「稲葉さん、これ動かないけど」。排水路に架けられた鉄板が動きません。私もやってみましたが重くてびくともしません。スコップの柄を「てこ」にしても動きません。その重さは、腰にもきて、今でも覚えているくらいです。「これ、人の力で無理だ。やめよう」。私はそう言いました。でもその後、ティーン2人(M君、N君)はトライを続けるので、私も加わりました。何度か、チャレンジしてしばらくしてからですが、動かなかった鉄板が、動き、はずすことができました。「やったー!」。すごい感動してしまいました。M君、N君が、鉄板の下にたまっていたヘドロを出すと、流れ出す「トンネル開通」の状況になりました。よくあの重さが動いたナー、神様が力を与えてくれたんだナーと、今でも思います。

女性陣も3人、ホコリと泥まみれで、重労働を黙々とがんばってました。ティーンのQさん、目にヘドロが入ってしまいました。幸い、看護師のRさんがメンバーにいて、すぐに目薬を持ってきてくれました。ヘドロ井戸チームのSさんも、目にヘドロが入ってRさんのお世話になり、事なきを得ました。「主の山に備えあり」でした。

バツハ

庭の井戸チームを取材に行くと、ヘドロがいっぱいの

池の掃除班が励んでいました。今回は、この池の中に、魚粉が満杯の米俵のようなものが、たくさん流れ込んでいました。水を吸って重く、また泥の粘りに吸引されて、大人4人でようやくネコ車(一輪車)に載せた場所です。今回、水と泥をかき出すと魚がたくさん、出てきたらしいです。高橋さんのお父さん(社長さん)と一緒に作業していたTさん(14)。明るいキャラクターを生かして、わいわい話しながら、へどろ池の泥かきを率先して行っていました。高橋さんのお父さんは「私もバツハとか、宗教音楽、好きなんだよ」「そうなんですかー」。そんな会話が生まれていました。「Tさん(14)：掃除をしてみると、自分はあまり役にたっていないような気がした。でも、高橋さんのおじいちゃんと一緒に掃除をしてる時、『ありがとう』と言われて『あっ、自分も少し役にたつたのかなぁ』っと思って嬉しかった」。

高橋さんの驚き

「家」チームは、廃材運びと床下と池のヘドロかき。これも、腰を使うので、重労働です。3週間前より、作業が一步、進んでいて、うれしかったです。トイレやお風呂の方にいくと、まだまだヘドロも液化化状況。でもこうして、家の隅々まで、作業させていただく関係が与えられるなんて、すごいことだなーと改めて思いました。

私は、2時間ほど廃材運びをしていたところ、高橋さんが「お父さん(社長)、工場の方、どうなった?」「(お父さん)すごい片付いた。さっき機械も移動できたよ」「(高橋さん)うそだろー。見に行くよ」。それで3人で工場に行きました。工場グループの8人が熱心に働いていました。工場に入った高橋さん「うわー、信じられん。よく、ここまでやったなー。すごい、これ。これは助かったー」。高橋さんの真剣に驚いた声は、忘れられません。



石巻・水産加工場の排水路そうじ
(第3回「チア・東北サポート」より)

洗濯、食器洗いチームは女性陣が中心、最後は小雨の中での作業となりました。高橋さんいわく「どういことばで感謝したらいいか、わかりません。本当にわかりません。いろんな不思議な出会いで、こうして稲葉さんたちとも出会って、、、。クリスチャンの人たちの助けっていうか、、、」。高橋さんとの会話が小雨の中で、どんどんはずんで、止まりません。それだけ、みんなが喜びに満ちていたというか、「(高橋さんのお父さん) さ、そろそろ行かないと仙台まで帰るんだし、みんな雨に濡れてしまう、、、」とQ出しするほど、なんかずっと話していたい気持ちでした。こうした高橋さんたちとの交わりが、4回めのチームでは、高橋さん親子の紹介で、牡鹿半島の漁師さんたちの港のがれき掃除へとつながっていきます。

臭いとコンビニの女子高生とキリストの香り

帰りのマイクロバスは、皆、充実感に満ちていました。そして、ヘドロの臭いにも満ちて。途中、コンビニに寄り、わいわい、夕食のお弁当を買いにいきました。そこでは、

「Tさん(14)：掃除をし終わって、バスに乗り、セブンイレブンによった。みんなヘドロまみれでお店に入るので定員さんは一瞬いやな顔をした。女子高生たちが『うわぁ！ くっさ〜』と言ってたけど、なぜか嬉しかった。臭い臭いと言われれば言われるほど褒められてるみたいだった」

「Uさん(20)：石巻のボランティアからの帰り、ヘドロ除去作業でみんな臭くなっていて、コンビニで嫌な顔されたり、バスの中が減茶苦茶くさくなったりしたけれど、それも今思うとキリストのかぐわしい香りだったのかもしれない。みんなの人々に仕える姿をみて、その内側のイエス様を見てくれたら、それこそみんなの本当の目的がなかったことになる」

確かに、僕たち23名の臭いは強烈でした(松岡さんは仕事のため、釜石から仙台へ。一行は23人へ)。自分たちは慣れて気になりませんが、臭いがしていることは自覚しています。でも、上記のコンビニ、一緒に現場にいたので、ちょっと、付け加えますね。確かに、お店の人たちも、最初はびっくりして「え？ なに？」って感じの表情や女子高生グループの「くさっ！」「え、この臭い？」と小声でのコメントや鼻をおおうリアクションは、ありました。でも、すぐに石巻に住む彼らは、この臭いの意味や泥にまみれた長靴集団の僕らの理由を理解していました。そして、臭いの受容、そして、感謝と尊敬のまなざしに変わり、親近感をもってくださっていたのも、僕は、この目でしっかり見れて、うれしく思ったのでした。仙台に帰り、着替えをもって、近くの温泉健康ランドへ。神様からのご褒美みたいな、すごい楽しい一コマでした。

「B君(16)：井戸みたいな穴にヘドロがどっさり。家の床下にも、一つ一つ行っているうち、楽しく心から喜んでいる自分がいた。

目の前にある仕事を忠実に行う事。

それを心から喜ぶ。仕えるというのはそういう事なのかもしれない。

色々葛藤はあったけど、神様が俺を少し変えてくれた気がします。

どこが変わったのかは具体的にはわかんないけど。。。

一つ確かなのは、帰り道、俺は心から笑って帰ったということ。神様に与えられた喜びがあったという事」

「C君(20)：23人という人数でもかなり大変だった。これを家族の方たちだけでやるとしたら本当に気が遠くなるほどの仕事の量。というよりも、もはやできないんじゃないかという感じ。前回、高橋さんのおじいさんが『明日こそ、片付けようとするのだけれど、泥とゴミの山を見てしまうと無気力になってしまう』と言われてた意味がわかる。今回大人数で、やれることの量も大幅にアップした。でもよく考えると、このような家が何百、何千、何万とあること。多くの人たちが、物資だけではなく、仕事や心のケア、励ましを必要としている。一見、家は津波の被害がなく大丈夫そうに見えても、実は仕事を失い、物資もなく困っている人たちが大勢いる」。

「V君(14)：一番大変だったのは、ヘドロ掃除でした。でもうれしいこともたくさんありました。物資を配った人が喜んでくれたり、高橋さん達が笑ってくれたからです」。

若林区に行ったら？

最終日、まず、マイクロバスや軽トラックを徹底的に洗いました。「新車同様に返そう！」を合い言葉にみがきをかけました。ワインスタジオの豊君が、話しかけてくれました。「稲葉さん、空港のそば、ひどいよ。昨日、行ったら、震災直後の様子とほとんど変わらなかったよ」。先に仕事で仙台に戻っていた松岡さんに聞くと「名取や青葉区、若林区ですね。あそこはひどい状況ですよ」とアクセスの方法を教えてくださいました。そうした情報が与えられて、神様の導きも感じ、そこに寄ってから東京に帰ることにしました。途中、サマリタンズパースや、国際飢餓機構で物資の再度の補給。ここでの補給が、その日、初めて訪ねることになる、若林区で用いられることになります。

仙台のすぐそばなのに、なぜ、復旧が遅れているんだろう？ 「かなり被害が甚大で、復興をあきらめた地域が多い」という情報も入ってきました。どういう状況なんだろう？ 仙台市若林区。震災の翌日の朝のニュースで、「仙台市若林区で200人以上の死者が出ている模様」との情報も全国に流れました。今回の震災の深刻さが広まる、第一報となった、その場所です。

地区のゲートでは、警察の検問がありました。通行止めが相次いでいる道路で、がれき処理の工事車両しか通さないとのことでした。少し粘り、「支援物資の支給車」であることを伝え、祈って、返事を待っていると、道が開かれました。

「Lさん(16)：最後に若林と名取に行った時には、言葉も失いました。他は、家の土台が残っているところが多かったのに、そこには何もありませんでした。かろうじて、根っこごと引き抜かれた大きな木が所々に残っているだけでした。

こんな所に人がおられるんだろうか、と思いました。おられました。再起不可能と言われていたその土地で、少しでももとに戻そうと頑張っておられる方たちが。悲しみを乗り越えて一生懸命働いておられる方たちが。その方たちの満面の笑顔を見たときに、私は絶対にここに戻って来ると決意しました」

被災し半壊となった家で、後片付けをしている高齢の方

の姿が見えました。それでバスを止めてもらい、あいさつとリサーチに行ってみることにしました。「(稲葉) こんにちわ。いろいろと支援物資を持ってまわってきましたが、何か、役に立つものありますか」。するとSさんは、「あー。それは助かる」「では、トラック、開けますので、」。物資を紹介していると、近所の皆さんが数人、集まってこられました。状況を少し伺い、自己紹介した後で、「今、若いみんな23名あまりで、ボランティアでまわって来ました。次回、また、来られればと思っておりますが」「いっぱい、お願いしたいことあるよ。ぜひ」「そうですか。若いメンバーたちを皆さんにあいさつさせたいのですが、いいでしょうか、。」「どうぞ、どうぞ」

バスに戻ると、みんなが、自分たちの昼食分とかをカンパして集めてくれていました。「被災者の皆さん、OKだつて。さあ、あいさつに行くよ！」

「Wさん(16)：何かできないかと思ってみんなで持って行った食料を袋に入れて渡しました。私たちがバスから出るとその地区の住民の人々が若いのがこんなにかいと言って驚いていました」。

ある方が、おかゆを渡すと、高齢の方が、「私、これうれしい！ 避難所の普通のお米、私には固くて、。この2ヶ月、ほとんど、食べられなかったの、。」「と心から喜ばれていました。

「いや、救援物資で、たくさん、上着はもらったんだけど、紳士用のズボンがなくて、。」「(稲葉) ごめんなさい。今回、うちにもないんだけど、この次持ってきますね。ここに来る前にサマリタンズバースに寄って補給した物資等もずいぶん役立つこととなりました。

日本中が家族になれるとき

連絡先等を伺って、感謝の中で、東京へ向かいました。仙台空港そばのコンビニで、昼食の再購入。レジを打つる方に、「釜石、石巻とボランティアでまわって来ました」と話すと「そうでしたか」とうれしそうな顔をしてくれました。「若林や名取とまわって来ました。このあたりも、大変でしたね」と言ったら、「大変でした」。そして、涙をこぼされました。本当に大変だったんだと思うし、ボランティアの仲間と知って、気を許してくれたんだらうな、。今は、日本中が知らない人同士でも、家族みたいになれるタイミングなんだなーと思いました。

こうして、第3回、すごい祝福の中で帰京。続く、第4回は、聖書のことばが掲げられた聖句トラックの4トン車いっぱい支援物資と、25名のメンバーの熱い思いをもって、さらに被災者の皆さんとの交わりを重ねることが許されていきました。詳細レポートは次号にてさせていただきますね。

旧制中学・高校の同窓会企画、 圧倒的な勝利で終わる！

7月2日、皆さんに1年越しで祈っていただきました旧制弘前中学・弘前高校同窓会で、担当することになりました特別企画、「弘中・弘高歴史アラカルト—名山・名士を出す、誰人か、天下の賢！」は、歴代レコードとなる(弘

前高校渉外部発表) 360名余りの参加者の中で、主にある圧倒的な勝利！で終わることができました。お祈り、ありがとうございました。これについても教えられたこと多く、後ほど、レポートさせていただきます。

エミリと初の「2人だけの日本1ヶ月」

今、第5回のチア東北サポートの準備、特に、アメリカからの3名とのやり取りに追われています。あと、久々にエミリと二人の1ヶ月、というか、いつもは真祈史と一緒に日本なので、エミリと二人だけの日本は初体験。朝、公園と一緒にエクササイズに行ったり、「旧約聖書10」を一緒にできて、感動して過ごしています。今週末には、京都での路傍伝道に少し、加わらせてもらおうと思っています。お祈りください。

私が書く、アメリカの皆さんへの英文メールも、今までは真祈史がチェック役でした。今回、代わって、エミリが文法チェックをしてくれています。真祈史は、今月14日にはバージニア州のパトリックヘンリー大学へと向かい、寮生活が始まる予定です。だから、今度、ロサンゼルスに帰る時には、もう真祈史は家にいません。皆さんの長きに渡るお祈りを感謝し、また、これからも続けて祈っていたければうれしく思っています。

思い煩わない、焦らない、主は遅れない

「思い煩わない」、「焦らない」そして、「主が助けられるのに、遅いことはない」、Never worry, Never hurry, Never lateという、聖書からの心得を、最近、教えてもらいました。確かに、そうだなーと思います。並行して、映画の仕事もこの2ヶ月、様々あり、チアの展開も含めて、とても忙しい日々でありました。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」(1テサロニケ 5:16-18)の基本を思います。「私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」(ローマ 8:37)ですね。「私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。…私は、私を強くくださる方によって、どんなことでもできるのです」(ピリピ 4:11, 13)と訓練される日々です。

ロサンゼルスにいる時には、ジョセフ(2才11ヶ月)を連れて(連れられて!)近くの運動公園によく行きました。ジョセフがどんどん、しゃべれるようになって驚いています。和紀子も最近、琴の名取に昇格できて、あちこちの教会や演奏会で用いられ、楽しそうです。

8月末の富士山キャンプ、第5回「チア東北サポート」、10月1日のオリンピックや、11月の白馬、どうぞ、お祈りください。

皆様へのますますの祝福を祈っています。

感謝しつつ

稲葉 寛夫

初企画！

どなたでも

大歓迎!!

チア・オリンピック

10月1日(土)

台東リバーサイド(東京・台東区)

チア・オリンピックとは

聖書に記されているパウロの時代の古代オリンピック種目をチア流にアレンジし、運動のモチベーションを高める！

目的

楽しむ事は大前提。真剣に競技した結果を記録に残し、さらに向上する目的を与えて、自主的にスポーツへの興味をアップ！ スポーツ礼賛ではなく、体力、精神力、ガッツ力のアップから、神様の栄光につながる基礎力の養成を！ そして、スポーツを通して、世間との伝道の架け橋へ！

プログラム

<午前の部>

- 9:00 参加者集合
- 9:15~ 開会式、祈り
- 9:30~ 準備体操
- 9:45~ 競技開始
- 12:30~ 昼食、休憩

<午後の部>

- 14:00~ 午後の競技開始
- 16:00~ 記録発表
- 16:30 解散

種目

<団体競技>

1. 大玉転がし
2. 玉入れ
3. 綱引き
4. 障害物競争
5. リレー(信仰のバトン繋ぎ)等々

<個人競技>

1. ランニング(50m、100m、1600m、3000m)
2. フリスビー投げ
3. 遠投
4. ほうき投げ
5. 走り幅跳び 等々



チア・オリンピック精神に流れる聖句

■ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。(第一コリント9:26)

■キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。(ピリピ3:14)

チア・オリンピック開催にあたって

僕(稲葉)としては、形にこだわらず、HSの楽しい運動会、野球大会、また、競技体験的なオリンピック・マラソン大会、各スポーツクラブ、、がどんどんできてくれば、うれしいなと思っています。それぞれ、『きっかけ』となり、実力を養っていくことになると思うので。

僕自身、『きっかけ』で励まされたり、良い目標になって、啓発されています。この前、学習会で、フリースロー大会あっただけで、それを目標にアメリカで少し練習もできました(結果は、5本のトライ中、1本ゴールで3人の同点優勝(高校生・大人の部)。コーチの壘さんからは、「すごい低レベルの優勝ラインですね(^_^)。次回、もう少しがんばってくださいね」と言われて、次回めざして練習始めてます。それも、このような機会があったからだなーと思い、感謝しています。

- そういう意味でも、子どもたちへの何かのきっかけになる可能性あるから、オリンピック、チアの年間行事に入ることはいいことだなーと思いました。

我が家の子どもたちには、教会がやった音楽キャンプがきっかけで真祈史はトランペット、エミリはバイオリンを10年以上やっています。そんな展開がスポーツでも、あるかなーとも思っています。

そして、体力、気力を養いながら、キリストの弟子の心を与え、伝道へ！ということで。もちろん、楽しみや交わりも大切に、育てていきながら、、、。

今回のチア・オリンピック、「スカイツリー」の目の前という、台東区陸上競技場という素晴らしい会場も与えられました。神様が子どもたち(親たちにも)、『きっかけ』をもたらす、大きなプレゼントになればと思っています。どうぞ、ご参加、お祈り、今からの練習をよろしく！

参加費

■大人(中学生以上) 800円 ■小学生 500円(保険料含む) ■幼稚園以下 300円(保険料含む)

お申し込み

お名前(ふりがな)、ご住所、電話番号、性別、高校生以下のお子さんの年齢を明記の上、FAX(03-6862-8648)またはメール(office@cheajapan.com)にてお送り下さい。

お振り込み先は下記まで。

■郵便振替 00190-3-35461 チア・にっぽん事務局

■銀行振込 三菱東京UFJ銀行 赤羽駅前支店 1446697 ホームスクーリング・ビジョン株式会社

第3回 (5/10-13)

チア・東北サポート レポート2

Aさん (16)

「ボランティアに参加して」

5月の半ばに4日間、被災地に行く事ができました。

前は自分が東北に行くなんて考えたこともなかったし、両親がまだ年齢的にも霊的にも幼く弱い私を行かせるはずなんかないと思っていたので、募集が始まったときは気にもしていませんでした。

しかし、父と母、どちらも神様から示されて、私にも「行きたい」という思いが与えられたので、申し込みました。もちろん被災地の方々を助けたい思いもあったのですが、行く前はすごくルンルンで、キャンプ感覚になってしまっていました。

心配なこともありましたが、どちらかといえばワクワクしていて、神様は現地でどんなことを私に用意してくださっているのだろう、と楽しみにしていました。

そんな矢先、出発の前々日、風邪をひいてしまいました。そして出発する前日の午後には、高熱でフラフラして立ち上がれないほどになっていて、「神さまひどい。どうしてこんな時に?」と神さまに文句を言っていました。

でもその時に、「ああ、私はまだ自分の問題や罪さえ処理できていないのに、他の人(被災者の方々)にお節介して助けようとしてたんだ。」と気がついて、ベッドの上でずっと祈り、ありとあらゆる罪を悔い改めました。

しかし夜になっても熱が下がる気配はありませんでした。私はまた気が挫けそうになって、もう無理なのかな、と何度も思いました。

でもそこでまた祈りました。

「悪魔の攻撃から解放してください。そして私の犯した罪を示してください。悔い改めます。」

何度も祈り、悔い改めました。

そうしたら朝までぐっすり眠ることができ、起きておそるおそる体温を計ってみると平熱より低いくらいで、半日前までのフラフラも嘘のように消えていました。

その日は本当に興奮して、東京への出発が待ちきれなくてそわそわしていました。

そこでまたしても誘惑に引っかかり、行く直前に母を敬わない態度を見せてしまいました。

その事で、熱が下がったことを心から神さまに感謝していなかったことに気がつき、感謝して、たった今犯した罪も悔い改めることができました。

東京に向かう電車の中では、自分が神さまの前ではこんなに弱くて小さい存在なのに、そんなに偉大な神さまが私の祈りをこんなにダイレクトに聞いてくださるなんてすごい、と感謝しました。



そして、こういう事の前にはもっと祈らないと、と思いました。これからはちゃんと祈って備えたいと思います!!

これで勝利したかのように思いましたが、東北の方へ向かってからは、自分の自我との戦いが続きました。

すぐに他の人を裁いてしまう自分。

泥だらけになりたくない。

しゃがむの辛い。

疲れた…。

自分の事ばかり考えていました。

そんなときに救援物資を配りに行きました。

取り合いもせず、そうかといって不必要な譲り合いもせず、本当に近所の方々と愛し合っておられる被災者の方々を見て、何かあついものがこみあげてきました。

私がしなければならぬこと、(それも今!!)それがわかった気がしました。

しかしそれから精一杯働けたかというところではなくて…。なかなか大変でした。

一番葛藤したのは、津波の被害に遭われた高橋さんのお宅で、漆黒のヘドロの中に!!入って作業することになったときです。

稲葉さんに「やる?」と聞かれて、いやだなあ~と思いながら渋々中に入り、シャベルで少しずつかき出し始めました。

初めは汚れたくないから直立してちょっとずつシャベルでやっていました。

しかしそれでは一生終わりそうになかったのでプライドを捨て、ヘドロに浸かってバケツでやることにしました。それでもやりにくかったので最後は手で作業しました。

最初は本当にいやでしたが、途中から一緒に作業していた2人と冗談まで言い合ったりして、笑いながら終われました。

終わりかけの時には、「ここ居心地いいね。」なんて言ってるでお風呂に入っているみたいにくつろいでいました。

その後はおもに洗濯をしました。知らない人に自分の服を洗ってもらうなんて絶対嬉しいことではないのに、その家のおばあさんが何度もいらっしゃって無言で見ておられました。

何度も何度も無言で感謝を表してくださって、私も嬉しくなりました。

しかしその日はまだ葛藤がありました。

雨や洗濯の水で体中ずぶぬれになって、最後の方には芯から冷えてしまい、このままでは風邪がぶりかえすというくらい寒くなってきたのです。

その時バスに戻っていいよ、と言われたのですが、他の子たちはまだ働いているのに自分だけ帰るのは怠け者みたいでいやでした。

そんなことは自分のプライドが赦せなかったし、他の人たちにどう思われるかも心配でした。

でもしばらく葛藤した後に、私はプライドを捨ててバスに戻る事を選択しました。

今思えばあそこでバスに戻っていなかったら本当に風邪がぶりかえして、結局迷惑をかけるだけだったかもしれません。

語りかけてくださった神さまに感謝します。

その後も自我との戦いは続いていましたが、精一杯とまでは行かなくとも、だんだん楽しく働けるようになっていったんじゃないかな、と思います。

被災地を見た感想としては、聞いていたほどそこまで精神的に来たりはしませんでした。最後に若林と名取に行った時には、本当に言葉を失いました。

他の所は、家の土台などが残っているところが多かったのに、そこには何もありませんでした。

かろうじて、根っこごと引き抜かれた大きな木が所々に残っているだけでした。こんな所に人がおられるんだろうか、と思いました。おられました。再起不可能と言われているその土地で、少しでももとに戻そうと頑張っておられる方たちが。悲しみを乗り越えて一生懸命働いておられる方たちが。その方たちの満面の笑顔を見たときに、私は絶対にここに戻ってくると決意しました。

今回ボランティアに参加するまで、私は神さまが本当に私を愛してくださっているのかどうか、あまり分かりませんでした。

赦されているのかな？と思うこともありました。結構自分の中で神さまは恐い存在でした。

でも、今回行けたことさえもそうだし、一緒に行ったメンバーが心からの愛を示してくれた

りして、神さまに愛されてるんだ!!って前よりもずっと分かるようになりました。

友達との交わりの中での、「神さまも両親も、罪を告白したら絶対赦してくれるよ。」の一言も私にとって大きかったです。感謝しています。

あとは初日に泊まらせていただいた教会で教会の方に、風邪が治った事やそういう事を少しだけ証した時に、色々教えてくださって、愛されてるよって言ってくださったことがすごく印象に残っています。

次のボランティアも行きたい、行けたらと願っています。理由は、次こそ心から仕えたい、自分を中心にして世界を回したくないからです。

そして被災者のみなさんに少しでも神さまの愛を感じてもらいたいからです。

一番の理由は、私も神さまの愛をもっと知りたいからです。心から隣人を愛せる愛がほしいからです。

家で忠実に仕えることも被災地で仕えることと同じくらい大切だと分かったので、神さまが出て行きなさいと言われるその日まで、両親のもとで小さな事にも忠実に仕えたいと思います。

今回企画してくださったチア・にっぽんと、送りだしてくれた家族、そして誰よりも神さまに心から感謝します。



Bさん (16)

最初、父たちが、前もって行ったときの話しを聞いていて、自分でも何かできないかなと思っていたので、今回行って奉仕とかできてとても良かった。

一日目、仙台から山を越えて陸前高田に入ったとき、一瞬自分の目を疑った。愕然とした。そこにはただ瓦礫のほか何もないような感じだった。そこに町があったとはとても思えなかった。

それから、大船渡に行った。大船渡はまだ陸前高田よりかは町並みを残していたが、そこには横転した車、またへし折られている電柱など津波の悲惨さが感じられた。またそこは水産業の盛んなところだったので、腐った魚のにおいがとてもすごかった。

その日の夜は、大船渡の教会に泊めさせていただいた。お世話になりすぎた気もする…。

二日目は、教会の庭の掃除をした。庭の上をヘドロが覆っていた。それをとり除く作業をした。作業をしている途中に魚の死体が落ちていた。その魚は悪臭を放ち、捨てるのにも一苦労だった。被災地の方々毎日こういうのを目にし、また臭ったりするのは、本当に大変だと思う。

そのあと、釜石で東京や仙台から持ってきた物資を配った。10分ほどでなくなってしまった。午後からは、市のボランティアセンターで大量の血洗いをした。今まで、見たことのないような皿の量だった。

三日目は、石巻の高橋さんのご自宅に行った。はじめに、物資を配った。その後、高橋さんのご自宅と海産物工場の掃除をした。最初に僕が割り当てられた仕事は、家にあった家具などの運び出しだった。その次は、海産物を入れる備え付の樽の中のヘドロ出しをやった。はじめは汚れるのがいやだったので上から少しずつやっていたが、効率が悪いので結局その中に入ってどろどろになりながら作業した。そこから、すべてのヘドロをかき出せたときには、「やったー!」と叫びたくなった。

今回の、ボランティアを通して、神様はいろんなことを自分に語ってくださったような気がした。人に仕えること、人間の作ったものはいつかなくなってしまうこと。自分の命もいつまでかわからないこと。この地震をなぜ神様が許されたのかはわからない。しかし、日本の人々を神様は見捨ててはいない。

そして、この災害を通して、日本の人々が神様がいるということに気づいてくれればいいなって思った。

自分も将来、何か人のためになる職業に就きたい。



Cさん (20)

「東北ボランティアレポート」

今回、5月10日から13日までの4日間、東北ボランティアに参加した。

東北ボランティアに参加するのは初めてで、特に神様からビジョンや御言葉を与えられていた訳ではないが、以前から「自分もボランティアに参加したい」と思っていて、どちらかと言うと「テレビなどの映像を見るだけではなく、実際に被災地に赴いて被害状況や現状を自分の目で確かめ、体感したい。」という思いの方が強く、いろいろ考えてる時に東北ボランティアに参加してみないかと声をかけていただき、これも何か神様の導きだと思い、被災地に足を踏み入れることになった。

5月10日早朝、寝不足で気だるい中、重い体を何とか起こし起床。レンタルした2tトラックに支援物資や自分の荷物を積み込みチアのオフィスへ移動、そこで別のメンバーと合流し、また支援物資を積み、今回のボランティアの守りと祝福の為に祈り東北へ出発。

東北に近づくにつれて自衛隊の車両が目立つようになり、夕方5時ごろに陸前高田に到着。突然目の前に飛び込んできたあまりにも悲惨な光景に言葉が出なかった。

辺りを見渡しても瓦礫の他に大きな建物が僅かに残っているだけで、普通の民家は見当たらなかった。この瓦礫の処分は一体どうするんだろうと思う。

その後、外も暗くなってきたころ大船渡へ到着し、ここで車を降りて誰もいないゴーストタウンのような町の中をみんなで見て回った。数人でデパートの立体駐車場を昇り、自分はフラフラと一足先に屋上へ行きみんなを待つことに。辺りを見渡しながらかけていたが誰も来ない。「ん？」と思っていると遠くから車のエンジン音。見ると、ちょうどバスに乗り込んでる皆様が…。とたん何かに弾かれたように立体駐車場の4階からスロープを、2年間ろくに運動してい

ない体で駆け下り、そこから50mほど離れた車のもとへ。自分以外のご一行を乗せたバスとトラックはすでに発車していたが、なんとかトラックに乗り込むことに成功。あんな所に置き去りにされたら堪ったものではない。

翌日は釜石市のボランティアに参加した。瓦礫の撤去作業だろうと思い、防塵マスクと簡易防護メガネを準備し「いざ！」と気合を入れながら市のボランティアセンターに行ったところ、言い渡された仕事は、『皿洗い』

しかしこの皿洗い、侮るなかれ。総勢23人でやっても5時間かかるほどの膨大な量で、終わるころには腰が痛くて辛かった。が、やり終えた時の達成感はとても気持ちが良かった。

高橋さん宅でのボランティアは数か所でヘドロや重油の除去作業を。自分は主に水産加工場で排水溝に溜まった重油をスコップでかき出す作業を担当した。

最初はいかに服を汚さずに除去作業ができるか試行錯誤しながらやっていたが、服に重油がはねてからはどうでもよくなり作業に専念することができた。

今回のボランティアでの自分達の活動は、全体から見ればほんの微力にしかならないが、ボランティアをやることに意味があると思う。

震災から2カ月経った今でも家を失い避難所生活を強いられたり、生活に必要な物資や仕事を必要としている人々は大勢いる。

また、テレビでは見られない現実もあることを知った。車での移動中に道路を挟んで片側は津波の被害を受けて、



もう片側は何の被害を受けていない光景を見た。

津波の被害を受けなかった場所は一見、普通に暮らしているように見える。だが実際には仕事を失ったり心に傷を負っている人たちが大勢いる。

他の人も言っていたが、支援物資のニーズは地域によって全く異なる。ある地域では「衣類はいらないが、食料や飲料が欲しい」、また別の地域では「衣類でも上着はあるがズボンや靴が欲しい」と言う声も現地で実際に聞いてきた。また、被災地の市の職員からは必要ないと言われても、被災者に直接聞くと「是非下さい」と言われることがあるということも知った。

4日間ボランティアをしていて誰一人、嫌な顔をせず一生懸命にやっていた。本当に素晴らしいことだと思う。

またこの震災を通して神様が私たちに何を伝えたかったのか、神様の警告だったのかを考え祈る必要があると感じる。

そして今回のボランティアでの経験は、聖書で「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい」とイエス様が私たちに言われているように、「地の塩、世の光」として世に出て行く為の第一歩になったと思う。

最後に今回ボランティアに参加し被災地で人々に仕えることができ、誰一人大きな事故や怪我もなく無事に帰って来られたことを心から主に感謝します。



第5回

チア・東北サポートチーム

ボランティア募集

ヘドロ掃除、壁はがし、仮設住宅ヘルプ、
支援物資配給、ほか、たくさんの必要が待っています！

【期間】

8月29日（月）— 9月2日（金）

【場所（予定）】

大船渡、釜石、気仙沼、南三陸、仙台市若林区

【宿泊場所】

未定。バスの可能性もあります

【作業】

民家、工場の掃除、廃棄物撤去、支援物資の配給

【定員】

25名（8月11日現在 残り7名）

※定員になりましたら、次回のウェイティング・リストに登録させていただきます。

【参加資格】

参加は原則、高校生以上（保護者同伴の場合、原則14才から可能）。どなたでも大歓迎！ ただし、定員の関係で、LITを誠実・従順な姿勢で体験された皆さん、チア・サポートスクール生の皆さん、優先です。これまでの参加者の皆さんの再応募も歓迎します。作業等に慣れた皆さんは、被災者の人々への貢献度が高くなると思うからです。でも、基本的にオープン企画ですので、初めてでも、ぜひ、お申込みください。大人（女性、高齢者OK）の皆さんの申し込みも、大歓迎です。ある程度、大人の参加者も必要です（参加希望者が多い場合は、チア・メンバーの皆さん、優先です）。こぞってお申込みください。

ホームページに掲載している同意書にご記入の上、チア事務局に電話（042-318-1807）、Fax（03-6862-6648）、Eメール（office@chea-japan.com）等でお申し込みください（同意項目については次ページに掲載）。

【食料】

各自準備です。現地のコンビニ等で買えますが、時間を急ぐ関係で、買えない場合もあります。初日、二日目の朝食分までは、多分、寄れません。朝食用のレトルト、長距離バスの中でのお菓子ほか、4-5食分は必ずお持ちください。（お湯、レンジ等は使えるところが多いです。）

【ボランティアの場所】

ガイガーカウンターを持参し、ホットポイントでの作業は避ける予定です。

【その他】

ご質問等、遠慮なくチア事務局まで連絡ください。

【お祈り】

「第5回チア東北サポート」ボランティアへの祝福を、ぜひ、お祈りください。

【場所・時間】

出発：チアにっぽんオフィス 8月29日 7時30分集合 8時出発
解散：チアにっぽんオフィス 9月2日

【同意書】

以下の同意書の項目に同意いただく必要がありますのでよろしくお願いします。

- 1 明るく、感謝し、優しく、謙遜と尊敬をもった態度で接し、被災者と共に喜び、泣く思いで過ごします。
- 2 参加申込後、参加できなくなった場合は、速やかに連絡します。
- 3 事情により、活動を中止する必要がある事を同意します。
- 4 期間中の自分の行動の全責任は私自身にある事を認めます。この事は、親族等の承諾を得ています。また、私自身の病気やけが等の事故、交通事故、盗難ほか、不慮の事故、災難等に巻き込まれた場合、私や親族、第三者から主催者への補償の請求は致しません。
- 5 活動中は、全ての人々に愛と尊敬と忍耐と平等と節度をもって接します。
- 6 丁寧な言葉遣いを心がけます。
- 7 華美な服装、また、女性は肌を露出した服装、また、男性は、礼を失した服装等を避けます。動きやすく、汚れてよい服装を着用、現地では、底の厚い靴を履きます。20代以下は、茶髪、ピアス等、男性は長髪（ポニーテール等）を避けます。（第4回の参加者は、期間中に渡した鋼鉄製の中敷きを持参ください。）
- 8 活動の前後には手洗いとうがいを励行し、私自身はもちろん他の人の健康にも留意します。
- 9 活動にあたり、チア・にっぽんの方針や指示に従います。無断外出等は、しません。主催者側から受けた注意、指導は積極的にとらえて、改善することに留意し、その後、主催者により、活動途中での帰宅を指示された時には、自己の交通費負担等で帰宅することに同意します。
- 10 個人のプライバシー保護はもちろん、活動中に知り得た情報は絶対に漏らしません。
- 11 男女交際に気をつけます。
- 12 ボランティア保険に加入します。（手続きはチア事務局が行います。第4回で、加入済みの方はOKです）

【義捐金、受けつけてます】

義捐金募集も同時にさせていただきます。チアとしては、何か目標金額があっても、集めてはいません。集まった分だけ、現地の皆さんの最新の必要にあう物資を購入等し、現地の方との交わりやボランティア作業の架け橋として用いさせていただいています。

現地では今、第二ステージに入ったとは言われています。実際は、家族、自宅、家具、船、車、そして、職場（収入源）等を失い、心の面はもちろん、経済的にも、将来への不安を抱えた皆さんとの出会いが圧倒的に多いです。2-3年、収入の見込みゼロと何人も漁師さんや水産加工業者の皆さんが話してくれました。今回も、聖書の福音のことが書かれた4トン車に、満載の物資を届けさせていただこうと思っています（途中、補給しつつ3ヶ所で配布の予定です）。私たちの持っていくものは、一時的なサポートであり、微力です。でも、その物資と気持ちの支援もまた、各地で大変、喜ばれて、心の架け橋として大きく用いられることを体験してきました。被災者の皆さんの痛みに寄り添い、共に心を合わせたいとの皆さんの尊い思いや応援のお気持ち、神様の愛と福音を伝えたいお気持ちを、できる限り、効果的に伝えさせていただければと思っています。ボランティア作業と並行しての物資サポートとして、今回は、以下の物資の購入、支出等に用いさせていただく予定です。

【今回、義捐金で購入予定の物資等】

果物、野菜、食糧、栄養ドリンク、カロリーメイト等健康食品、お菓子、下着、作業着、服、ズボン、石けん・シャンプー、スコップ、長靴、一輪車等、支援物資購入費用や支援活動のガソリン代等に用いさせていただきます。お祈りのお気持ちで感謝ですので、ご無理ないように。でも、神様に導かれた皆様は、それも大きな力になりますので、ぜひ、どうぞ、よろしくお願いします。

【送金先】

- 郵便振替 00190-3-35461 チア・にっぽん事務局
- 銀行振込 三菱東京UFJ銀行 赤羽駅前支店 (普) 1446697
ホームスクーリング・ビジョン (株)





チャサポートスクール

☆ 開校5カ月め！ ☆

- ◆チャーチ&ホームスクーラー、ホームスクーリング・マインドの子どもたちの助け。
- ◆学力、実力、資格取得、チャーチ&ホームスクーリングライフのサポート。
- ◆聖書をベースにして、魂の救い、キリストの弟子の心を与える、伝道・世界宣教の目的達成への学業・実技面からのヘルプ。

授業時間枠が拡がりました！ 遠距離の皆さんのご要望にお応えしました！

- 一般科目 9時30分～12時45分 ※授業は1コマ45分。
- 英語 (GS) 9時30分～15時 ※ご希望の曜日・時間をお選びください (現在、火～木の午前
に4セッションを予定しています)。

♪ 早期申し込み (第二弾8/31まで) 授業料ディスカウント、♪
チャンスを、お見逃しなく！

授業料はできるだけ安く設定しますが、8月31日まで2期生授業料、9月1日以降、通常授業料...と授業料に若干、差を出さざるを得ません。それで早期ディスカウントのご利用をお勧めします。兄弟割引、2限め、3限め以降の割引 (スライド制) や英語 (GS) と一般科目の授業料の違いなどあります。詳細は、CSS事務局に遠慮なく、お問い合わせ、また、資料をご請求ください。「個人面接」も受付中 (電話OK!)

ロゴマーク決定！！

チャ・サポートスクールのロゴが決定しました！
デザインは、チャ・にっぽんのロゴを作成して下さった飯守格太郎さんチームです。飯守さんは東武グループ、清水建設、日野自動車などのロゴを作成されたクリスチャンのグラフィックデザイナーです。



チャ・サポートスクール本校所在地：東京都世田谷区赤堤4-41-5
京王線 下高井戸駅 徒歩2分

各 申 込 書

(FAX 03-5300-0872) www.cheajapan.com

- GrapeSEEDの資料希望 (無料)
- 体験授業希望
- チャ・サポートスクールの資料希望 (無料)
- 個人面接希望 (面談・電話・スカイプ・メール)

お名前 _____

ご住所 〒 _____

TEL _____ FAX _____ e-mail _____

お問い合わせはメールかお電話で。

e-mail : horiit@arkvillage.com TEL 03-5300-0820 担当：堀井卓まで



チャサポートスクール

☆ アップデート情報! ☆

チャ・サポートスクール 夏の特別企画 CSS英語特訓カリキュラム

ミニミニ留学体験 CSS English Camp

- 日 時……8月25日17時集合～27日
- 場 所……富士山アークロッジ
- 対 象……小学3年生～高校生
- 定 員……15名（残り5名…8月11日現在）
- 参加費……12,000円（2泊3日。26日朝・昼・晩27日朝・昼の食事を準備します。25日夕食は談合坂サービスエリアでの食事になります。各自負担）

	25	26	27
		Wake up	Wake up
6:00		Devotion	Breakfast
7:00		Breakfast	Mt.Fuji
8:00		Worship	Hiking
9:00		Study	
10:00			
11:00			
12:00		Lunch	Lunch
13:00		WaterFight	
14:00		English game	
15:00		Study	Clean up
16:00			Go back to
17:00	CSS	Dinner	Tokyo
18:00	Dinner	Movie	CSS
20:00			
21:00	Worship	Worship	
22:00	Sleep	Sleep	

初めから終わりまで、
英語で考え、英語で話す訓練です。

- ・英語でのワークショップ、お祈り、聖書
- ・英語の5時間レッスン
- ・英語でのゲーム
- ・英語で映画鑑賞
- ・おしゃべりも英語に挑戦

富士山ハイキング

27日は富士山に登ります（小雨決行）。今回は「登れる所まで!」。途中、お弁当を食べながらのハイキングです。



主任講師はデール先生（CSS）。4人のアメリカ人ホームスクーラーも合流してサポート



チア・サポートスクール (CSS)

CSS ペアレンツ
の声より

《ペアレンツの声》

Q1. お子さまがCSSに通うようになって、ご家庭での様子はどうですか？

- ◎1週間の中でメリハリが出来て、家でも落ち着いて学習出来るようになりました。(Aさん)
- ◎親が教えることができないのでとても助かります (Bさん)
- ◎深く教えることが時間的に限りがあるので、助かっています。(Cさん)
- ◎CSSでメンバーとどんなことを話したか、何を勉強したか、楽しそうに話してくれます。(Dさん)
- ◎明るくなりました。CSSでの会話の内容など、よく話してくれます。(Eさん)
- ◎気持ちに“ハリ”が出たように感じます。知識も経験も豊かな先生に大いに刺激を受けているようです。(Fさん)

Q2. ご家庭でのHSを進めるにあたって、何か変化はありましたか？

- ◎CSSの事など色々話してくれて親子の会話が今までより増えました。学習も集中してやれる様になりました。(Aさん)
- ◎親が選ぶものより専門家の目から見て適切な教材を学ばせていただける。(Bさん)
- ◎とにかく数学に力を入れてくださっているので助かっています。自分のレベルよりも上のレベルのテキストを用意してくださり、励まして進めていただいているので、やりがいがあるようです。(Cさん)
- ◎自分から勉強するようになりました。特に東北サポートのボランティアでのCSSのメンバーの皆さんとの関わりから、会話の中に主がおられることを実感し、喜びに満たされて帰ってきました。疲れた体でベッドの上で休もうとしている時、「言葉で言い表せない喜び…行ってよかった…」とひとりごとを言っているのが印象的でした。その後、「人を助ける仕事がしたい」と勉強する目的が見つかったのか、朝早く起きて勉強するようになりました。感謝です。(Eさん)
- ◎サポートスクールに行く時間と宿題をやる時間をこれまでの学習ペースに組み込んでいくのに、時間のやりくりを自分で考えてがんばっています。(Fさん)

「期待以上のサポートに感謝でいっぱい！
娘も楽しくてしょうがないようです！」
「集中して学習できるように！」
「親子の会話が今までより増えました！」
「気持ちに「ハリ」が出てきました！」

Q3. HSをするにあたって、どのようなサポートを望んでおられますか？

- ◎満足です！ 6月13日から被災地ボランティアに息子も参加させてもらえ感謝です。教会員の皆さん興味津々。息子にどこの企画で行くのか？等聞いてましたが、彼は「チア・サポートスクールです！」と自身気に答えていました。(Aさん)
- ◎震災のボランティア企画を、大変感謝しています。(Bさん)
- ◎期待以上のサポートをして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。前回見学へ行った時に、あまりに雰囲気良かったので、ああ、これはここでいつも礼拝がささげられているからだ、と強く感じました。娘は、ランチタイム、電車の行き帰りも楽しくてしょうがないようです。(Cさん)
- ◎上記のことなど含めて様々な面での精神的サポートを続けてお願いしたいです。それぞれの祈りの課題など出し合って祈り合えたらいいと思います。(Dさん)

Q4. グレープシード英語教材はいかがですか？ CSSのグレープシードクラスを受講するようになって、お子様の様子はいかがですか？

- ◎自分から積極的に時間を作って取り組んでいます。デール先生のレッスンも楽しくやっているようで感謝です。(Aさん)
- ◎グレープシードの教材は本当に楽しく勉強できて、発音も驚くほど良くなり、これからが楽しみです。デールさんのクラスもみんな生き生きとして楽しいクラスですね。デールさんの大らかな人柄にみんな安心してリラックスしている姿が印象的でした。ちゃんと発音できているかどうか確認して頂くことができ、更にグレープシードが活用できて、うれしいです。娘もいつも楽しみにしていて、はりきっています。(Bさん)
- ◎教材はとてもよいと思っています。音楽も楽しめるもので、期待以上です。レッスンも喜んでいるようですし、CDとDVDだけより、やはり英会話力になると感じています。(文字にとらわれず、先生の言うことを聞き取る練習になっていると思います。)(Cさん)
- ◎デール先生が、とても熱心に教えてくださって感謝です。子供たちもとても楽しそう。歌のキーが多少、不安定なのが気になるといえば気になる…でも今のままでいいです。(Dさん)



今年は白馬に集まりましょう！ どなたでも大歓迎！

- ◆家族のきずなの回復。そして、教育の原点、聖書に立ちかえる体験
- ◆北欧調リゾートホテルで100種類のバイキング
- ◆11種の温泉
- ◆徹底学習（約50の基調講演・分科会）
- ◆家族・教育の目的、情報、励ましとチャレンジが与えられる！
- ◆家族・チャーチスクール・仲間との一生の思い出！

基調講演者は、エリザベス・スミス (Elizabeth Smith)
HSLDA (ホームスクーリング法律擁護協会) 代表夫人に決定！

「講演予定」

- 「バランスのとれた家庭・夫婦、そしてホームスクーリング - 夫と妻への10のヒント&妻が夫に知ってもらいたい、ホームスクーリングのポイント」 "Balancing Home, Marriage, and Homeschooling"
- 「危機（ストレス）管理と結婚生活を長い目で成功させるために」 "Crisis Management and Marriage for the Long Term",
- 「ホームスクーリング成功への5つの秘訣」 "Five Essential Ingredients to Successful Homeschooling"
- 「子どもたちの魂を訓練する秘訣」 "Training the Soul of a Child"
- 「ティーンをホームスクーリングすべき10の理由」 "Ten Reasons to Homeschool Teens"



★ 早期申込特典！！★
「聖書に基づく教科書」等
プレゼント

11月5日までのお申込&入金済みの大人の方に、聖書に基づく教科書「聖書6」、「聖書10」、「聖書11」（各2800円）、「りか1」「りか2」（2310円）、DVD聖書（日本語字幕版）、単行本「ちょっぴりホームスクーリング考えてます?」「チャーチ&ホームスクーリング入門」（各1680円）、「レガシー」（1980円）の中から、いずれかひとつ、もれなくプレゼント！ このチャンスをお見逃しなく！

大好評！！ LIT
(リーダーズ・イン・トレーニング)
定員24名、13-18歳対象

キリストの弟子として、子どもたちを助けていく訓練を受けます。参加者にも大好評です。全国の仲間とともに、主の弟子となる道を進みましょう！

参加希望者はチア・事務局までご連絡下さい (TEL 042-318-1807、FAX 03-6862-8648、Eメール: office@cheajapan.com)

第5回 「グランプリ！大会」開催！

自作のレースカーで競い合うグランプリ大会を、白馬セミナーで開催します!! 白馬でも、レースカーキットを実費販売しますので、2日目の夜までに完成させての参加もOKです(500円)。参加資格は、今年度制作のレースカーです。

昨年に引き続き、今回も「スピード部門」「美術部門」の2部門で競います。「美術部門」コンテストの郵送受付は11月10日まで。郵送先はチア事務局へ(白馬参加の皆様はご持参ください)。

作品は白馬セミナーで展示し、優秀作品は表彰させていただく予定です。チアのファミリーを励ましたいという、ある有志の方の提供により、グランプリ大会参加者には豪華賞品あり。また、あるボランティアのご家族が、グランプリ特設コースを製作してくれました。

レースカーキットは、誰でも作れます。形や色も工夫できます。車軸は差し込むだけなので、トンカチ必要なし。お母さんや小さい子どもたちでもできる楽々セットです。気軽に、こぞってご参加ください! 工作・技術の向上はもちろん、素晴らしい家族の思い出にもなりますよ!

現在、キット(500円)の予約申込を受付中です。ご希望の方は、お名前、ご住所、お電話番号、希望個数を明記の上、メール(office@cheajapan.com)、またはFAX(03-6862-8648)までお申込みください。

* 第2回 チア・にっぽん杯 * 絵画コンクール

昨年、初の試みとして開催した絵画コンクールには、見る者の胸を打つ感動の力作が多数寄せられ、大変好評で、コンベンション、サマーキャンプ、白馬セミナー、チア・マガジン&HPらで、展示、掲載されました。その第2回目です!

今年も作品のテーマは「聖書」。聖書のどの場面でもOKですので、自由に想像をふくらませて絵画に描いてみてください。表彰・展覧会は、白馬セミナー会場です。入賞者には、チアからの賞状とチア・メンバーからの賞品あり! どなたでも大歓迎です! お待ちしています!

<応募要項>

■テーマ：聖書のストーリーから題材を取り、自分のイメージを絵画にしてください。

■部門：(1)小学生の部 (2)中高生の部 (3)一般の部

■作品のサイズ：自由(画材は油彩、水彩、クレヨン、ペン画ほか自由です)

※【下記の項目を作品の裏にご記入頂き、ご応募下さい】

氏名(フリガナ)、住所、学年、年齢、性別、電話番号、絵のタイトル、その絵を描いた理由(100字以内自由)

■応募締切：11月1日(火)

■送り先：〒189-0013 東京都東村山市栄町1-5-4-103 チア・にっぽん事務局 「絵画コンクール」係

第6回 チア・にっぽん杯 読書感想文大会 募集中!

良書を読むこと、感想文を書くことは、神さまの栄光を現す力となります。昨年も40作品以上の素晴らしい作品の数々が寄せられました。今年もたくさんのご応募、お待ちしております!

◆対象作品：三浦綾子作品(どれでもOK)、あるいはチア書籍(どれでもOK)

◆部門：(1)小学生の部(400~1600字)(2)中高生の部(800~2000字)(3)一般の部(800~2000字)

◆締切：11月1日(火)

◆発表・授賞式：11月17日(木)夜7時 白馬セミナー会場(予定)

◆送り先：〒189-0013 東京都東村山市栄町1-5-4-103 チア・にっぽん事務局 「読書感想文係」

(※メールでも受け付けています → office@cheajapan.com)

いなちゃんの

お薦め映画ライブラリー

先月までの62作品の詳細はwww.cheajapan.com 映画ライブラリーコーナーへ

「きいてほしいの、あたしのことーウィン・ディキシーのいた夏
悲しいことあるけど、そこには神様の希望と計画もある

少し、入荷！ 好評ながら製造中止の同作品、お急ぎください！

廉価版 再登場！ 限定販売

この作品は、クリスチャン作家ケイト・ディカミロ（児童文学の「ニューベリー賞」受賞）が原作。最初はムービーガイド賞のテッド・ベア博士の推薦で観て「いい映画だなー」と思い、次は最近、妻の和紀子から、「(アメリカの) 図書館で大人気の本が原作。映画も、とてもいい作品だと思う」と言われて、じっくり観なおしました。「これ、すごくいい！」と思ったので、推薦です。人生、喜びだけでなく、悲しいこともあるけれど、その中に神様が準備した希望が隠されているよ！といったメッセージが、あたたかいタッチで、感動的に描かれています。オパール役のアナソフィア・ロブ（「チャーリーとチョコレート工場」、「タリシヤにかけける橋」ほか）の好演も貢献しています。

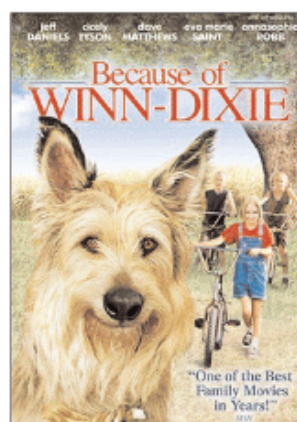
奥さんと離婚した牧師が、10歳の娘オパールと、悲しみの町と言われる田舎の教会に赴任しました。オパールはお父さんと、うまくいってません。友達がほしいですが、お父さんは、その寂しさをわかってくれず、礼拝中、「友達をください」と神様に祈ります。その日、スーパーで騒動を起こしている迷い犬、ウィンディキシーと出会い、オパールは友達として連れ帰ります。お父さんは、家賃を献金として無料にしてもらっていました。犬を保健所に送るか、家を出るか迫られ、教会から借金をして家賃を払い、飼い主が見つかるまでの条件で、ウィンディキシーを飼うことを許します。

ウィンディキシーは友達作りの名人。ペットショップのオウムたちと仲良くなり、刑務所帰りの傷を持つ店長とも仲良くなり、オパールは掃除のアルバイトを始めます。年老いた図書館の館長とも友達に。そして、子どもたちに「魔女」と言われ、孤独に暮らしていた、貧しい盲目の黒人女性、グロリア・ダンプさんとも。

グロリアさんは、オパールの話をよく聞いてくれます。7年前に、いなくなったお母さんのこと、そして、父の「牧師さん」は、その傷がいえずに、話したがるらないことも。オパールは、思いきって、お父さんに理由を尋ねます。「お母さんはね、牧師夫人として、常にみんなに裁かれるような生活が大変で、そして、..」

オパールは、グロリアさんの庭でパーティを開こうと計画します。悲しみの町ではなくて喜びの町となるように、..。人生はやり直せるよ、人を愛すること、許すこと、家族・隣人愛、そして、信仰を強めていくことが、ウィンディキシー、神様への祈りによって与えられた贈り物との夏休みを通して与えられていきます。

もっと信仰に踏み込んで描けたのでは、とも思う一面もあります。でも、作品全体に流れる優しさ、励まし、悲しい体験への共感、他者への愛、そして底流にあるキリストへの信仰によって、とてもハートウォーミングなメッセージとして伝わる、家族で観れる良い作品です。廉価版2,500円にて再登場！



ムービーガイド賞受賞

新 発 売 ！

「ナルニア国物語／第3章：アスラン王と魔法の島」

ブルーレイ（2D本編）+DVD本編+デジタルコピーの3枚組で発売！
定価4,190円

詳細はマガジン34号巻頭特集へ、どうぞ！



「ファイアー・ストーム」「フェイスング・ザ・ジャイアント」

試写会 受付中！

100週連続1位 (アメリカ・クリスチャン書店)

「ファイアー・ストーム 決断する愛—夫婦の危機を救う40日プラン」

SONYピクチャーズとチアとのコラボレーション！

＜桐生キリスト教会での試写会
「ファイアー・ストーム」＞

・無条件の愛、本当に神様にしかできないことです。
(40代 女性)

・無条件の愛のすばらしさに感動し、また考えさせられました。ありがとうございました。(50代 女性)

・ずっと見ていたくなる映画でした。終わってしまうのがさみしいような気がしました。とても心温まる良い映画ですね。感動し、泣いてしまいました。(20代 女性)

・今まで自分が人を愛していたつもりであっても、本当の愛とはちょっとちがうと思いました。自分を捨てて、さらにさらに無になって、苦しみながら尽くす主人公に打たれました。この機会をいただき、ありがとうございました。(70代 女性)

・無償の愛について、本当の愛について、イエス・キリストの愛について、とてもわかりやすく、主を知って頂く為に、とてもよいテキストだと思いました。無償の愛を学ぶ40日のテキスト、是非手に入れたいと思います。ありがとうございました。(70代 女性)

・良かったです。(80代)

・普段、見慣れない映画を観て、深く考えさせられました。帰宅してから、また思い起こしながら考えたいと思います。(男性)

・とても感動しました。見返りは求めない愛を見せていただいて、とてもよかったです。(30代 男性)

・感動した良い映画でした。ユーモアもあり、あきることなく見入ることができました。いろいろ考えさせられ、勉強になりました。(50代 女性)

・とても泣けるとおもいます。(10代 男性)

・神さまの無条件の愛を知り、人の見返りを求めない愛をしっかり実行させていただきたいと思います。

・母のおじさんが15歳でアメリカに渡り、主人公のような結婚生活を送っていたようですが、真の信仰を得て、初めて「夫婦」になった話を子どもの頃に聞きました。感激しました。ありがとうございました。(60代 男性)

・心温まるハッピーエンドで主の愛のすばらしさを感じました。多くの人々に見てもらいたいと思いました。(50代 女性)

・とてもいい映画でした。僕も他人を無条件の愛で愛したいと思いました。(10代 男性)

・とてもすばらしかったです。主人と一緒に見られたら、もっと良かったと思いました。神さまを信じることのすばらしさを、改めて思わされました。皆様を愛せる人生を歩んで行きたいと思いました。感謝でした。(70代 女性)

たくさんのお申し込み、ありがとうございます。小規模で大歓迎ですので、ぜひ、お申し込みください！ DVDは、ご家庭等、個人的な場所での視聴以外、無許可で集会、教会等における上映会は、禁止されています。でも、「ファイアー・ストーム」「フェイスング・ザ・ジャイアント」については、チア・にっぽんが正式な窓口となって、ソニー・ピクチャーズ社に申請する道が開かれました。「上映&DVD販売会」という名目で許可を得る方法です。主に祝福された素晴らしい機会となると確信しています。

まずは資料をご請求ください。既に実施済みの教会、団体からは多くの感動と祝福のレポートが多数、寄せられています。皆さんの教会でも、両作品からの大いなる福音伝道の業が、拡がっていくことを心から祈らせていただきます。詳細・問い合わせはチア・にっぽんまで (Eメール: kuwatani@cheajapan.com FAX03-6862-8648)。申し込み詳細は、HPでもチェックできます。www.cheajapan.com。お申し込みをお待ちしています！

試写会 「ファイアー・ストーム」「フェイスング・ザ・ジャイアント」

感動の声、続々！ 開催してみませんか？

(無料！少人数OK！) お申込みはチャまで！

<今後の予定>

「ファイアー・ストーム」

■ 8月28日(日) 兵庫 御影神愛キリスト教会

「フェイスング・ザ・ジャイアント」

■ 9月19日(月・祝) 東京 調布バプテスト・テンプル

<開催いただいた教会・団体>

「ファイアー・ストーム」

- 仙台 チア・サマーキャンプ
- 長野 チア・白馬セミナー
- 千葉 おゆみ野教会
- 東京 久我山キリスト教会
- 東京 福生ベテル教会
- 東京 日野キリスト教会
- 埼玉 ベテル・バプテスト教会
- 静岡 第45回教役者大会(ヤマハリゾート)
- 東京 武蔵野EFC教会
- 静岡 キャンパス・クルセード(ヤマハリゾート)
- 東京 クロスロード・インターナショナル葛西教会
- 滋賀 ジーザス・ハウス守山教会
- 埼玉 ANRCセミナー(ヘリテージ・リゾート)
- 札幌 ICF教会
- 石川 小松ベタニヤ福音教会
- 滋賀 東近江キリスト福音教会
- 静岡 VP浜松
- 愛知 名古屋グローリアスチャペル
- 茨城 水戸第一聖書バプテスト教会
- 岡山 西大寺キリスト教会
- 北海道 札幌キリスト福音館
- 北海道 札幌キリスト福音館栗沢チャペル
- 千葉 千葉グレイスチャーチ
- 神奈川 横須賀キリスト教会
- チア・コンベンション(関西・東京)
- 岐阜 海津キリスト教会
- 神奈川 青葉台ナザレン教会
- 東京 東京ライトハウスチャーチ
- 大阪 阿倍野キリスト集会
- フォースクエア教団(年次総会)
- 愛知 名古屋グローリアスチャペル(2回目)
- 熊本 有明バイブルチャーチ
- 大阪 JECヒルズチャーチ
- 岐阜 海津キリスト教会(2回目)
- 埼玉 JEA心のオアシスリトリート
- 埼玉 KFG志木キリスト教会
- 神奈川 City Vision Glory Church

- 福井 敦賀自由キリスト教会
- 東京 東京シティチャーチ
- 静岡 インマヌエル総合伝道団浜松キリスト教会
- 東京 インマヌエル中目黒教会
- 東京 シオン・キリスト教団 蒲田教会
- 宮城 仙台福音自由教会
- 埼玉 Shalome Community Church
- 福岡 博多ニューライフ教会
- 岩手 RIM キャンプ
- 北海道 芽室キリスト教会
- 大阪 大阪クリスチャンセンター
- 福井 敦賀自由キリスト教会
- 宮城 仙台福音自由教会(2回目)
- 群馬 桐生キリスト教会
- 兵庫 神戸中央教会
- 東京 太平洋放送協会
- 千葉 主イエス・キリスト千葉教会
- 東京 久我山キリスト教会
- 東京 調布バプテスト・テンプル
- 兵庫 広畑キリスト教会
- 兵庫 神戸西バプテスト教会
- 北海道 中札内初穂キリスト教会
- 大阪 寝屋川キリスト教会
- 神奈川 藤沢オリーブチャペル

「フェイスング・ザ・ジャイアント」

- 仙台 チア・サマーキャンプ
- 神奈川 Living Water Church
- 東京 日野キリスト教会
- 埼玉 ANRCセミナー(ヘリテージ・リゾート)
- FCMF(自由クリスチャン伝道団)
- 千葉 市原シャローム教会
- 青森 弘前キリスト集会
- 大阪 JECヒルズチャーチ
- 埼玉 KFG志木キリスト教会
- 神奈川 藤沢オリーブチャペル
- 静岡 インマヌエル総合伝道団浜松キリスト教会

♪ ボイス&メール ♪ Voice & Mail

5月31日、帝王切開で無事に2940gの女兒が産声を上げました。名前は「はんな」です。産後も母子ともに順調で、病院に無理を言って予定より一日早く退院し、ようやく家で寂しく待っていた恵輪と一緒に過ごせるようになりました。家に帰ってからも、順調で、よく飲み、よく寝てぶくぶく太ってきました。

今回も、素晴らしいニュースレター、隅々まで夢中で読ませていただきました。16歳のボランティアさんたち、本当にすごい体験が与えられましたね。将来が楽しみです。

恵輪とはんなも、和製ホームスクーラーとして、後に続けさせていただきたいと祈っています。サポートスクールにも、もう少し大きくなったらぜひお世話になりたいと考えています。

これからも、どうかよろしくお願い致します。

(埼玉 土屋治子)



私は最近、チア・カリフォルニアの集会に参加した者です。日本の被災地ボランティアについて、近況をご報告くださり、ありがとうございます。最近ではニュースであまり目にすることがありませんでしたが、復興までには長い道のりがかかりそうだと改めて感じました。稲葉さんのプレゼンテーションのおかげで、私たちの目は開かれました。まだまだ必要があること、そしてチア・にっぽんが被災した方々に差しのべている助けと愛の手があることを――。私たちからの捧げ物を受け取って下さいますか？ 義捐金を送るにはどの方法がベストでしょう？ どうやって支援できるか、教えて下さい。(アメリカ ラッセル&ドロシー・カム)

7月2日、第5子「陽(あたる)」が誕生しました。「マラキ書4:2 わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、癒しがある。」

太陽のように暖かく人々に接し、世の光として主の栄光を現せるようにとの思いを込めて名づけました。

(東京 堀井卓・ユリ)



本をお送り下さりありがとうございます。感謝して用いさせていただきます。「こころを育てるために一聖書一」は、小4の男の子、小2の女の子の学びに用いさせていただいております。親がなまけてなかなか進みませんが、良い親子の交流の時となっており、感謝しています。(加藤信治)

毎回、チアのHPから証を読み、写真を見て、感動しています。暑い中での作業になりますが、今回も、祝福の時となりますように。

先日、下高井戸の駅前を幼稚園のお母さん友達と一緒に歩いていたら、(CSS生徒の)Aくん、Bくんとそれぞれすれ違い、彼らの方から気がついて挨拶をしてくださいました。その様子を見て、お母さん友達が、「ホームスクーリングしていても、普通の今どきの子なんだねー！ ずっとむこうから気がついて会釈してくれてたんだよ！」と驚いた様子で言っていました。私の娘の姿を見て「楽しそうだねー」、私の様子を見て「幸せそうだねー」と常々言ってくれていたお母さんたちですが、その時の驚いた様子に、ホームスクーリングをしている子どもは暗い、というイメージがあったのかなと思い、CSSは、ホームスクーリングに馴染みのない一般の方々からホームスクーリングを知る場にもなっているのだなと感じています。やっぱり、百聞は一見に如かず、なんですね。実際、CSSも、そこに集うホームスクーラー一達も本当に明るく楽しげで、私も、CSSに足を運ぶ度に、笑顔になります。CSSの働きもますます祝福されますように祈り続けていきたいです。

それでは、またのお交わりの時を楽しみにしています！(Aさん)

♪ ボイス&メール ♪ Voice & Mail

稲葉様

主の御名を賛美します。

チアにっぼんのHPを見て、素晴らしいご奉仕をなさっていること、感謝します。何もお手伝いできないですが、お祈りさせていただいています。

昨年、私の運営しているブログで「旧約聖書のメッセージ」の画像利用の許可をいただいていたのですが、今回は「ここを育てるために」の画像を利用させていただきました。紹介というには、あまりに稚拙な内容ではあるのですが、ご容赦いただけたらと思います。

————以下、HPのブログより————

夏休みに入り、子ども達と「ここを育てるために」を利用して聖書の時間を持っています。

勧められて、生徒用、教師用1冊ずつ購入しました。とはいえ、ホームスクーリングをしてるわけでもなく、また、かなりめんどくさがりな私は、本棚に入れたまま長らく放置していました。たまに頑張ろうと思うのですが、教師用を開いて準備しようと思うと、難しく、あっという間に眠くなってしまいます。

これでは到底できない、と思っていたら、チアにっぼんのキャンプで「教師用の本は読まなくてもできるよ」と教えてもらいました。

それからなかなか取りかかれずにいたのですが、1月、小学校入学の手続きの傍ら、ホームスクールに導かれるかどうかも含めて考えたいと、取り組んでみました。長女6歳、次女4歳。

この本の良いところは、確かに教師が準備なくても大丈夫だと言うところです。(もちろん準備した方が生徒のためだと思います)。そして、子ども達が本当に喜んで取り組みます。

今日は2ページ、と決めて始めても、もっとやりたいと言い出すし、しばらく休んでいると「『ここ』やりたい!」とねだってきます。

この本の一番いいところは、子どもの聖書や教会学校などで聞くお話と、大人の私たちが使っている聖書とをリンクさせることができることだと思います。

聖書を実際に見たり、御言葉を探してみたり、というアクティビティがあるのですが、各ページの量が少ないのとゲーム感覚で負担なくできます。まだ理解力が育っていない次女も、それなりについてこれます。また、色を塗ってみたり、切り取ってパズルのように組み合わせたり、という子どもならではの楽しみ方もできます。

私たちはホームスクーリングに導かれず、一般の学校に通わせているのですが、ホームスクールマインドを持ち、子ども達を育てていきたいと思っています。

今後ともよろしく願いいたします。

成瀬 由紀子

*** 返信 ****
成瀬 由紀子 様

ハレルヤ!

とてもいい記事を掲載くださってありがとうございました! 子どもたちが、「ここを、」をやりたいって言うとお母さんとやって聖書を学んでいくって素晴らしいですね。

記事に書いてくれたように、「教師用」でがっちり準備することが負担になり「つんどく」になってしまうケースが結構あります。それで僕のセッションでは、「教師用の準備は2分から7分で済ませてね」とサジェスチョンしています。

最短の時には、最後のQ&Aコーナーの答えだけを見ておくととても便利で、「お母さん、どうして、そんなに聖書のこと知ってるの? すごーい!」という印象が得られる効果もあります(^ ^)。

実際にやり始めると、お子さんたちのように、お母さんと聖書を学ぶのがすごく正しく、楽しいことなんだというのを実感される子どもたちが多いです。

楽しくて1時間、2時間とやっていくケースもあって、そうすると長続きしなくなることもあるから、30-45分ぐらいで止めて、後は次回ね!という、また翌日とかにまわすこともサジェスチョンしたりします。

*** 成瀬さんより ****
稲葉様

お返事ありがとうございます。

準備を最長7分と決めれば、私でもできそうな気がします。また、答えだけをあらかじめ見しておくというのも、実践していきたいと思います。そういう意味では、ニュークリスチャンのお母様でもばっちりとお子さんに聖書を分かち合っていける素晴らしい教材だと思います。

11月の白馬セミナーは長女の小学校を休ませることになりますが、それでも参加を希望しています。私は過去に参加させて頂きましたが、毎回多くを学ばされていますし、夫と家庭や育児について語り合うよいチャンスとなっています。ホームスクール、チャーチスクールを選択していなくても、聖書に基づく育児について学べる貴重な機会です。

第13回 関東ミニ学習会

(7/11)

アンケート

・あれだけの大人でバスケットをしているのは初めて見ました。とても迫力がありましたね。藤井先生を含め、ご指導をありがとうございました。午前中のお話も、大変参考になりました。(神奈川 藤本麻矢子)

・普段会えない方々と交わる機会が与えられて嬉しかったです。皆さんの近況や報告をお聞きすることができて良かったです。GrapeSEEDの説明会はほぼ同じ内容のものを3回程聞いていますが、毎回理解が深まります。やってみないと解らないことがあるものです。チアや関係者の方々に心から感謝します。(埼玉 北村真紀)

・稲葉さんと交わっていただき、なぜホームスクールが必要なのか、聖書に従って子どもを育てることを直接伺えて、感謝でした。聖書では子育てについて何と言っているか？を、改めて夫婦で確かめようと導いていただけました(その後、箴言を半分読み合いました)。(匿名)

・学習会、ありがとうございました。今回、バスケットを教えて下さるといことで、そちらも楽しみに参加しました。子ども2人が参加しましたが、とても楽しかったようで、翌日、さっそくバスケットゴールのある近くの公園にボールを持って出かけました。チルミニも、小さなお友達が真剣にゲームをしていました。また、学習法もアドバイスも刺激となりました。ありがとうございます。(埼玉市川晶子)

・午前中の6人の兄姉の、学びについてのお証しから多くの示唆をいただきました。特に親として、子供が学びへの意欲を持てる安定した環境作りや、「子供が今何を思い、何をしているのか」良く見ることの大切さを思わされました。今我が家では、なんでもメモを取ろうキャンペーン実施中です。

「手で考える」ことで観察や思考が深まったりすることは多いと思います。息子の成長につながれば…と思っています。ホームスクーラー紹介の時には、パースデーソングまで皆さんで歌っていただき、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

午後のバスケットボール、息子は前から興味があつてとても楽しみにしていたので、燃えていたようです。機会を与えてくださったこと、感謝しています。私も中学生の頃やっていたので、引き込まれて思わず最後のリレーに参加してしまいました！

藤井兄のAEDについてのレッスンも、市で行なわれる講習は日曜日の午前中が多く、参加する機会がなかったので、ありがたかったです。久しぶりに多くのホームスクーラーとの交わりが持て、とても祝福された感謝な時でした。ありがとうございました。(千葉 佐藤美智子)

・今回2回目で、少し慣れてきたところもありました。自己紹介を通して情報交換ができて、良かったです。良かった点は、バスケットです。約3時間、思いっきり楽しむことができました。僕のチームは優勝して稲葉さんにアイスクリームを買ってもらいました。(波場瑛 12歳)

・特にバスケットスペシャルのフリースローの練習、ドリブルの練習が楽しかったです。自分でも上手くなったなーと思った。また6人の先生、特に堀井さんの「英語が大事」が大きかったです。これからは英語をもっと学ぼうと思いました。

こんどは試合形式でバスケットをやりたい。(佐藤信希 8歳)

・チアにっぽんのお働きの尊さを思います。先日の合同学習会に参加しても感じましたけれど、チアにっぽん(それと関わる多くの方)の祈りと愛と信仰のもとに、多くのHSが祝福を受けていると感じました。

ホームスクーラーとして参加できる場があり、話す機会があり、活動する場があるということは、日本では、とても貴重なことです。もう少ししたら、教育の多様性も認められて当たり前になるかもしれませんが…。

でも、3つの目的

- ・魂の救い
- ・キリストの弟子の心
- ・世界宣教

このことにアーメン！！と告白して心を合わせて励まし合えるHS家族の集まりは本当に感謝、感謝です。

稲葉さんは、相変わらず「いつでも全力投球」だしね！(笑)。100、伝えたいことあるけれど、この「1」にまとめて話すよ！っていう気合っていうか、凝縮感が、稲葉さんにはあって、本当に迫力を感じます。そういう祝福の空気の中に参加できて感謝でした。

お働きの祝福をお祈りしています。どうか、主の守りと導きがありますように！(Aさん)

チア・ダイアリー
Chea Diary

7月初旬、映画のミーティング後に、ジャシュアさんがポール・ブローマンさんのお見舞いに連れて行ってくださいました。ポールさん入院中ですが、心通わせて、話せて、とてもうれしかったです。

「(ポール) なかなか来てくれないな。もっとこまめに来てほしいよ」「(稲葉) ごめんなさい」「(ポール) お父さんは信じたか」「まだ。でも、心はますますオープン。食前の祈りのあとは、必ず、ありがとう！って言うてくれる。お祈りください」「わかった」「チアのみんな、ポールさんのこと、祈ってます。なにか、言いたいことありますか?」「少し、考えるかな」「ぜひ、チアの方々のために祈ってください。ぼくのためにも。和紀子や子どもたちや、丸森の方々のためにも。祈っててもらう必要があります。ぜひ、祈ってください」「わかった。約束する」「今、チアのメンバーや若者たちは、地震や津波の被災者を助けることを一生懸命やっています。それがいい訓練にもなっています」「(ジャシュア、朝日新聞の大震災を特集した写真集を見せて) これが津波のあとだよ。ダディが60年かけて伝道して歩いたところだよ。これ、気仙沼、これ、石巻。陸前高田。名取。3万人も亡くなったんだよ。ダディが伝道したエリアでしょう?」「(ポール) そう。たくさんの方が信じてくれた」「(稲葉) そうだよ。きっと天国に行ったら、たくさん、東北の人々がいるよ。今、残された人々も、福音にとっても心を開いているんだ。(チア・マガジンの大震災特集記事の写真を見せながら) これまで、月1回ぐらいのペースで、ボランティア活動とかに行けたんだ。この前、チアの子どもたちら25人でボランティアに行った時は、丸森の聖句トラックを借りていったんだ。わかるでしょう? ヨハネ3章16節が大きく書いてあるトラック」「丸森のトラックで?」「そう。ヨハネの3章16節が大きく書いてある、青と白の4トントラックだよ。覚えてる?」「覚えてる」「みんな、とても心開いてるよ。聖書のことばに。いのちとは何か、家族とは何か、生きるとは何か、自然への恐れ、その背後にある神様への恐れ。聖書とは何か。みな、心開いているよ。被災地の皆さんだけでなく、東京の人々も。チアの事務局が入っているマンションの人々は、多くの人々がボランティアやっていると知ってて、この前は、この聖句トラックに物資積んでる時に、1万円もってきて、『使ってください』って言うてきたんだよ。ノンクリスチャンの方だよ。それから、マンションの向かいの八百屋さんも、聖句トラックを見て、かぼちゃ、大根、ねぎとか段ボール箱、いろいろと持ってきて、『持ってってください』ってただでプレゼントしてくれたんだ。聖書がどーんと書いてあるトラックに、みんな向こうの方から、集まってくるんだよ。今、日本中の人々が、少しずつ、神様に、聖書のことばに心を開いてくれてるんだよ」「(ジャシュア) そう。みんな、もっともっと神様に心を開いている」「(稲葉) チアのみんな、ポールさんに感謝しているよ。強い目

的を話してくれたでしょう。魂の救い。地獄ではなくて、天国へ。キリストの弟子の心を与える。肉に属せず、御霊に属するクリスチャンへ。そして、伝道。世界宣教に生きる」「(ジャシュア) そうだよ、ダディ、チアのみんなに、何回もメッセージしたの覚えてる?」「(ポールさん、うなずく)」「(稲葉) 地震の直後も、チアには、ポールさんや丸森の方々の安否を尋ねる電話が全国からかかってきたんだよ。仙台周辺だっていうから、みんな心配したんだ。家族の生き方や人生の目的が変わるほどインパクト受けるんだから、みんな感謝しているんだ。そして丸森の方々のためになって、義捐金も集まってきて、それが、今の4回に渡るボランティア活動の最初の資金となっていった。8月末には、5回目も行くんだよ。みんな、ポールさんにずいぶん、感謝しているよ」「(ポールさん、うなずく)」「(稲葉) ポールさん、チアのみんなに、ポールさんがみんなへの祝福を祈ると約束してたと言っているか?」「(ポール) いいよ (ジャシュアを見て) いいだろう?」「(ジャシュア、うなずく)」「ぜひ、よろしくお願いします。祈っててもらう必要があるよ」「(ジャシュア) そうだよ。モーセが年老いてから、手をあげて祈ってる時は、イスラエルの軍は強かった。疲れて、手を下ろした時は、イスラエルの軍は弱くなった。だから、兵士たちがモーセの手を支えて、祈り続けられるようにしたよね。わかるよね」「わかる」「そう、ポールさん。祈ってて。来年は、サマーキャンプもやるから、その時もお願ひしたいよ。じゃ、ポールさん、行くよ。お祈り、ぜひ、よろしくお願いします。僕たちも祈っています。チア・マガジン、見る? 置いていこうか?」「(ポールさん、うなずく)」「(ジャシュア) わかった。じゃあ、ダディ、ここに置いておこうか? (ベッドの横の棚の上をさして)」「(ポール) 手元へ」「(ジャシュア) わかった。チア・マガジン、手元に置いて、すぐ見れるようにするんだね。じゃあ置いておくよ」「(稲葉) ポールさん、ありがとう! また、会いに来るね。」(病室を出て)

「(ジャシュア) ありがとう。親父は、知ってる人が来ると喜ぶんだ。今日も目の輝きが違った。アルツハイマーだけど、でも、わかるころはわかるんだ。この前も、20年来、ビジネスしてきた知人がアメリカから初めて来たんだ。そうしたら、親父、『病院はつまらない』って言うんだ。『なぜか?』って、その人聞いたら、『病院にいたんでは、金儲けができないじゃないか』って言うんだ。その人、それ聞いて大喜び。『あ、ポールは大丈夫だ! 金儲けを考えているなんて!』って。ビジネスの話をする親父なんて、本当に数年ぶり。その後、話はずんだんだ』『そうか、スイッチが入ったって感じなんだね』『そう。そのとおり。今日も、そうだったんだ。親父の目がぱっと輝いて。いつもと違うんだ。それを見て、とてもうれしかったんだ』『ありがたいなー。ジャシュア、連れてきてくれてありがとう!』

少しでも、ポールさんらの励ましになるようにと祈りつつ行ったのですが、祈りが答えられたみたいで、とてもうれしかったです。ポールさんに、ジャシュアに、神様にとっても感謝しました。